

東松島市防災備蓄計画

東松島市総務部防災課

平成24年10月（当初策定）
平成25年 9月（第1回変更）
平成29年 4月（第2回変更）
令和 3年 4月（第3回変更）
令和 4年 4月（第4回変更）
令和 5年 4月（第5回変更）

目 次

I	策定の目的	1
II	備蓄計画の基本的な考え方	1
III	備蓄全体に係る考え方	2
1	自助・共助による備蓄	2
	(1) 基本的な考え方	
	(2) 家庭（自助）による備蓄	
	(3) 自主防災組織（共助）による備蓄	
	(4) 事業所等（自助）による備蓄	
2	公助による備蓄	4
	(1) 基本的な考え方	
	(2) 想定人数及び備蓄数量	
	(3) 備蓄品目及び数量	
	(4) 品目別備蓄数量一覧	
IV	備蓄倉庫について	11
1	備蓄倉庫の機能と役割	11
2	備蓄倉庫一覧	12
3	備蓄倉庫位置図	13

資料編 別添

I 策定の目的

本市では、宮城県沖連動型地震に基づく地震被害、津波浸水区域を想定し、発災直後から被災者に対し円滑に食糧、飲料水及び生活物資の供給が行えるよう、平成18年3月に地域防災計画を策定し、物資の備蓄並びに調達体制の整備を定め、大規模災害へ備えていた。

しかしながら、東日本大震災では、想定を遥かに上回る被害を受け、長期間にわたる断水と停電、物流機能の停止により、国や県等からの支援物資の円滑な供給体制や、市としての備蓄のあり方をはじめとするいくつもの課題が明らかになった。

こうしたことから、本市では、東日本大震災の教訓を踏まえ、備蓄に関する役割を改めて明示し、市民、地域及び行政が一体となった対策を推進することを目的に本計画を策定する。

なお、本計画は、東松島市地域防災計画の部門計画として位置付けることとし、上位計画の改定や社会情勢の変化などに伴い、現状に合致していない部分や新たな課題が生じた場合には、その都度検討を加え、修正を行う。

II 備蓄計画の基本的な考え方

東日本大震災の際、災害発生から3日程度は、国、県等からの支援物資が届かなかったことを踏まえ、この間は備蓄物資を中心とした供給を行う必要があることから、本計画は発災から3日分を想定した食糧や飲料水等の備蓄のあり方について定める。

Ⅲ 備蓄全体に係る考え方

1 自助・共助による備蓄

(1) 基本的な考え方

平成23年12月に取りまとめた「東北地方太平洋沖地震に関する避難行動調査報告書」によると、家庭内備蓄については、以下のとおりであった。

「食糧、飲料水等を備蓄していた。」と回答したのは全体の50.9%であり市民の備蓄は東日本大震災前から十分とは言えない状況であった。

また、令和4年10月に実施した「令和4年度東松島市市民満足度調査」結果では、75.6%となり、平成23年度の調査結果より24.7ポイント上昇した。

発災直後における被害や混乱を最小限に抑えるためには、市民や自主防災組織、事業所等が、「自らの命は自らで守る。自らの地域はみんなで守る。」という自助、共助の考え方を基本に、平時から災害時に必要な物資を備蓄しておくことが重要である。

市では、今後も市民等の備蓄意識の高揚を図るための普及啓発を推進するものとする。

【参考】

家庭内での備蓄品（食糧、飲料水等）の用意について

回答項目	平成23年度		令和4年度		増減	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
用意している (していた)	179	50.9%	377	75.6%	198	24.7pt
用意していない (していなかった)	173	49.1%	102	20.4%	△71	△28.7pt
無回答	0	0.0%	20	4.0%	20	4.0pt

食糧の備蓄について

回答項目	平成23年度		令和4年度		増減	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
家族3日分以上	87	48.6%	181	48.0%	94	△0.6pt
家族2日分	32	17.9%	126	33.4%	94	15.5pt
家族1日分	33	18.4%	62	16.4%	29	△2pt
その他	25	14.0%	7	1.9%	△18	△12.1pt
無回答	2	1.1%	1	0.3%	△1	△0.8pt

飲料水の備蓄について

回答項目	平成23年度		令和4年度		増減	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
家族3日分以上	104	58.1%	202	53.6%	98	△4.5pt
家族2日分	33	18.4%	113	30.0%	80	11.6pt
家族1日分	24	13.4%	53	14.1%	29	0.7pt
その他	18	10.1%	7	1.9%	△11	△8.2pt
無回答	0	0.0%	2	0.5%	2	0.5pt

(2) 家庭（自助）による備蓄

発災直後には、流通機能が麻痺し、必要な物資を受給することができない可能性が高いことから、食糧や飲料水など避難生活に必要な物資を最低3日分、推奨7日分以上の備蓄に努める。

高齢者や乳幼児、障害者等の災害時要配慮者が必要とする紙おむつや医薬品、粉ミルク、哺乳瓶等の物資は、介護者がその確保に努める。また、食物アレルギーを持つ家族等については、食物アレルギーに対応した食料品の確保等に努める。

【参考】家庭における非常持出品の一例



(3) 自主防災組織（共助）による備蓄

各自主防災組織は、防災倉庫の整備及び備蓄物資（食糧及び飲料水等）の適正な維持管理、更新に努める。

(4) 事業所等（自助）による備蓄

事業所等は、発災後における事業所等としてのサービス継続やいち早い復旧を図るために必要となる資機材等の備蓄に努める。なお、集客施設を有する事業所等においては、来場者の一時的な滞留を想定した備蓄を検討するものとする。

2 公助による備蓄

(1) 基本的な考え方

- ア 市における備蓄は、自助・共助により賄われる備蓄物資等を補完する目的で行う。
- イ 市は、発災直後の生命維持や生活に最低限必要な食糧、飲料水、生活必需品等の物資や避難所運営に必要な資機材を中心とした備蓄を行っており、発災から3日間に必要とする物資を賄うことができるよう、適正な維持管理、更新に努める。
- ウ 市は、災害時要配慮者や女性用備蓄物資及びアレルギー対応の食糧等の配慮に努める。

(2) 想定人数及び備蓄数量

想定人数については、東日本大震災から10年が経過し、各家庭での災害時の食糧、飲料水等の備蓄割合が約7割まで向上するとともに、津波の衝撃や速度を弱め破壊力を減衰させるための海岸防潮堤、運河護岸、県道及び市道の嵩上げ等の多重防御施設の整備を終えたことを踏まえ、本市の人口の約3割にあたる1万2千人とする。

また、備蓄数量については、想定人数である1万2千人が発災から3日間必要とする数量とする。

$$12,000人 \times 3日 \times 3食 (\frac{1}{3}) = 108,000食 (\frac{1}{3})$$

以上の備蓄数量を基準とするが、今後も市民等へ備蓄の必要性を呼び掛け、意識向上を図ることにより自助・共助への段階的な移行を図りつつ、公助による備蓄数量をおおむね5年ごとに見直すこととする。

(3) 備蓄品目及び数量

備蓄品目については、災害発生から救援物資が到達するまでの間で、緊急性があり、かつ必要不可欠な食糧、飲料水、生活必需品などを選定する。

ア 飲食、飲料水関連

避難生活をするにあたって、当初から必要不可欠と考えられる次の物資を備蓄する。

(ア) 食糧

日常生活の主食である米飯に近いものとし、調理及び維持管理が容易であるアルファ米（アレルギー対応）とする。

また、幼児、高齢者や病気療養中の方に考慮した種類を取り入れる。

【備蓄数量】

12,000 人*3 食*3 日=108,000 食

うち幼児、高齢者、病気療養中の方に配慮したもの

本市の人口（0 歳、1 歳、75 歳以上）平均 6,150 人*5%*3 食*3 日=3,000 食

(イ) 粉ミルク

乳幼児用として備蓄することにし、使いやすさを考慮した小分け（スティック）タイプとする。

また、アレルギー対応粉ミルクも備蓄する。

【備蓄数量】

本市の人口（0 か月～12 か月）約 260 人*2 本*5 食*3 日=7,802 本

※小分け（スティック 10 本入り）タイプ 1 本当たり 100 ミリリットルに調乳

うちアレルギー対応粉ミルク

本市の人口（0 か月～12 か月）約 260 人*4%*2 本*5 食*3 日=312 本

(ウ) 飲料水

使いやすさを考慮して 500 ミリリットルのペットボトル容器とする。

【備蓄数量】

12,000 人*6 本(3 リットル)*3 日=216,000 本 (108,000 リットル)

(エ) 調理用機材等

飲食するために必要な次の物資を備蓄する。

哺乳瓶	浄水装置	浄水装置用カートリッジ
浄水装置用消毒液	ポリタンク	ウォータータンク
組立かまど	カセットコンロ	寸胴なべ

イ 生活関連

避難生活をするにあたって、当初から必要不可欠と考えられる次の物資を備蓄する。
また、東日本大震災時には上下水道設備が被害を受け、トイレの使用が困難な状況となったことから、汚物処理に必要な次の物資も備蓄する。

毛布	簡易寝袋	マスク
ウエットティッシュ	アルコール消毒液	ごみ袋
敷きパット	タオル	手袋（軍手）
手袋（ゴム製）	紙おむつ（大人用）	紙おむつ（子供用）
生理用品	簡易トイレ	トイレットペーパー
避難所用ブルーシート	避難所用アルミロールマット	

【新型コロナウイルス感染症対策】

非接触型体温計	間仕切りセット	間仕切りセット（授乳用等）
ダンボールベット	クロスパーテーション	フェイスシールド
ホッチョタイフレインコート	避難所屋外用ワタチーフ	アルコール消毒液
防護服	マスク	ゴム手袋

ウ 発電照明関連

東日本大震災時には大規模な停電の発生により、電力の供給が困難な状況となったことから、自力発電及び照明対策に必要な次の物資を備蓄する。

発電機（ガソリン）	発電機（ポータブル）	投光機
投光機（発電機付き）	コードリール	ランタン
懐中電灯	ろうそく	ガソリン携行缶
灯油用ポリタンク	ガソリン	灯油
カセットボンベ	乾電池（単一）	乾電池（単二）
乾電池（単三）	乾電池（単四）	

エ 資機材関連

救助活動や避難所運営などの応急対策に必要な次の資機材を備蓄する。

スコッチコーン	コーンウエイト	コーンバー
トラトープ（100m）	土のう袋	ブルーシート
車椅子	担架	一輪車
ハンマー	剣スコップ	角スコップ
ストーブ	のこぎり	バール
バケツ	ラジオ	リヤカー
キャンプ用テント	ハンドマイク	貯水タンク

オ 医薬品等

医薬品や介護用品等については、避難者の状態によって必要となるものが異なるこ

とから、発災時に必要となる物資、器材等を速やかに確保できる体制を整備することとし、関係団体及び事業者との協定締結など事前の対策を講じる。

(4) 品目別備蓄数量一覧

区分	No	品目	単位	備蓄数量	配備数量	
					防災拠点備蓄基地(1か所)	地域防災備蓄倉庫等(24か所)
食飲料関連	1	アルファ米 (アレルギー対応)	食	108,000	60,000	48,000
		(うち幼児、高齢者、病気療養中の方に配慮したもの)	食	(3,000)	(1,800)	(1,200)
	2	粉ミルク (スティックタイプ)	本	7,802	0	7,802
		(うちアレルギー対応)	本	(312)	(0)	(312)
	3	哺乳瓶	本	338	50	288
	4	飲料水 (500ミリットルペットボトル)	本 (リットル)	216,000 (108,000)	120,000 (60,000)	96,000 (48,000)
	5	浄水装置	台	24	11	13
	6	浄水装置用カートリッジ	本	576	0	576
	7	浄水装置用消毒液 (600ミリットル)	本	48	0	48
	8	ポリタンク	個	94	46	48
	9	ウォータータンク	台	24	0	24
	10	組立かまど	台	24	0	24
11	カセットコンロ	台	178	10	168	
12	寸胴なべ	個	18	18	0	
生活関連	13	毛布	枚	20,500	10,900	9,600
	14	簡易寝袋	枚	20,000	8,000	12,000
	15	マスク	枚	402,800	378,800	24,000
	16	ウェットティッシュ (100枚入り)	個	720	0	720
	17	アルコール消毒液 (500ミリットル入り)	本	1,400	920	480
	18	ごみ袋	枚	29,800	17,800	12,000
		(うち45リットル)	枚	(12,000)	0	(12,000)
		(うち70リットル)	枚	(13,000)	(13,000)	0
		(うち90リットル)	枚	(4,800)	(4,800)	0
	19	敷きパット	枚	1,885	1,885	0
20	タオル	枚	2,160	0	2,160	
21	手袋 (軍手)	組	9,660	2,460	7,200	

	22	手袋 (ゴム製)	組	480	240	240
	23	紙おむつ(大人用)	枚	9,376	544	8,832
		(うち Mサイズ)	枚	(4,800)	(192)	(4,608)
		(うち Lサイズ)	枚	(4,576)	(352)	(4,224)
	24	紙おむつ(子供用)	枚	19,528	8,200	11,328
		(うち Mサイズ)	枚	(10,240)	(4,096)	(6,144)
		(うち Lサイズ)	枚	(9,288)	(4,104)	(5,184)
	25	生理用品	枚	40,850	20,210	20,640
	26	簡易トイレ	セット	4,800	2,400	2,400
	27	トイレットペーパー	個	20,000	8,000	12,000
	28	避難所用ブルーシート	枚	1,200	180	1,020
		(1.8m*1.8m)	枚	(800)	(120)	(680)
		(1.8m*2.7m)	枚	(400)	(60)	(340)
	29	避難所用アルミロールマット	枚	1,200	(180)	(1,020)
	30	非接触型体温計 【新型コロナウイルス感染症対策】	個	115	0	115
	31	間仕切りセット 【新型コロナウイルス感染症対策】	セット	1,380	0	1,380
	32	間仕切りセット (授乳用等) 【新型コロナウイルス感染症対策】	セット	46	0	46
	33	ダンボールベット 【新型コロナウイルス感染症対策】	セット	1,380	1,380	0
	34	クロスパーテーション 【新型コロナウイルス感染症対策】	枚	69	0	69
	35	フェイスシールド (20 枚入り) 【新型コロナウイルス感染症対策】	パック	138	0	138
	36	ポンチョタイプレインコート 【新型コロナウイルス感染症対策】	着	92	0	92
	37	避難所屋外用ワンタッチテント 【新型コロナウイルス感染症対策】	張	23	0	23
	38	防護服 【新型コロナウイルス感染症対策】	着	2,760	0	2,760
	39	ゴム手袋 (100 枚入り) 【新型コロナウイルス感染症対策】	箱	28	0	28
発電照明関連	40	発電機(ガソリン)	台	22	22	0
	41	発電機(ポータブル)	台	32	8	24
	42	投光機	台	50	2	48
	43	投光機 (発電機付き)	台	50	2	48
	44	コードリール	個	10	10	0
	45	ランタン	個	812	92	720
	46	懐中電灯	個	339	99	240
	47	ろうそく	本	1,200	0	1,200
	48	ガソリン携行缶	個	57	33	24

	49	灯油用ポリタンク	個	10	10	0
	50	ガソリン	リットル	900	36	864
	51	灯油	リットル	400	16	384
	52	カセットボンベ	本	720	210	510
	53	乾電池(単一)	本	1,200	48	1,152
	54	乾電池(単二)	本	600	24	576
	55	乾電池(単三)	本	1,000	40	960
	56	乾電池(単四)	本	500	20	480
資 機 材 関 連	57	スコッチコーン	個	200	200	0
	58	コーンウエイト	個	200	200	0
	59	コーンパー	本	100	100	0
	60	トラロープ(100m)	巻	56	8	48
	61	土のう袋	枚	30,000	30,000	0
	62	ブルーシート (1.8m*1.8m)	枚	172	172	0
	63	ブルーシート (3.6m*5.4m)	枚	4,480	4,000	480
	64	ブルーシート (5.4m*7.2m)	枚	2,000	2,000	0
	65	車椅子	台	24	0	24
	66	担架	台	25	1	24
	67	一輪車	台	22	22	0
	68	ハンマー	本	33	33	0
	69	剣スコップ	本	500	500	0
	70	角スコップ	本	500	500	0
	71	ストーブ	台	30	30	0
	72	のこぎり	本	76	76	0
	73	バール	本	119	119	0
	74	バケツ	個	204	204	0
	75	ラジオ	個	492	12	480
	76	リヤカー (通常)	台	19	19	0
	77	リヤカー(折畳式)	台	24	0	24
	78	キャンプ用テント (1.2m*1.8m)	張	15	15	0
	79	キャンプ用テント (1.6m*2.1m)	張	99	99	0
	80	ハンドマイク (拡声器)	個	109	17	92
	81	貯水タンク (1,200リットル)	台	2	2	0

82	貯水タンク (500リットル)	台	1	1	0
83	貯水タンク (200リットル)	台	2	2	0

IV 備蓄倉庫について

1 備蓄倉庫の機能と役割

東日本大震災では、大津波の影響により市域の約36%が浸水し、自助、共助による備蓄も多く流失し、支援物資が到着するまでの間、避難所では物資が不足する状況となった。

こうした経験を踏まえ、発災直後から支援物資が到着するまでの間（3日間を想定）、避難所等への迅速な物資の供給及び被災によるリスク分散を図るため、以下の種類の備蓄倉庫の整備を進めている。

防災拠点備蓄基地（1か所）

避難者の多い避難所への物資の補充を図るため、備蓄物資を配備する基地。市域の中央部に位置し、今回の津波浸水区域外の高台にある鷹来の森運動公園内に整備した。

備蓄数量は、全体備蓄数の約半数。

地域防災備蓄倉庫（13か所）

多くの避難者の受入れた際、避難者に速やかに物資を支給するために整備する倉庫。

東日本大震災の際に多くの避難者を受け入れた各小中高等学校敷地内に整備する。余裕教室がある場合は、倉庫を新設することなく、備蓄スペースとして活用する。校舎新築等の大規模改修時には、備蓄スペースを確保する。

備蓄数量は、全体備蓄数の約半数を施設ごとに按分。

分散備蓄倉庫（11か所）

小中学校以外の避難所に避難した避難者等に支給するために整備する倉庫。市内8地域ごとの津波の浸水危険の少ない場所及び市役所本庁舎等に整備する。

防災拠点備蓄基地



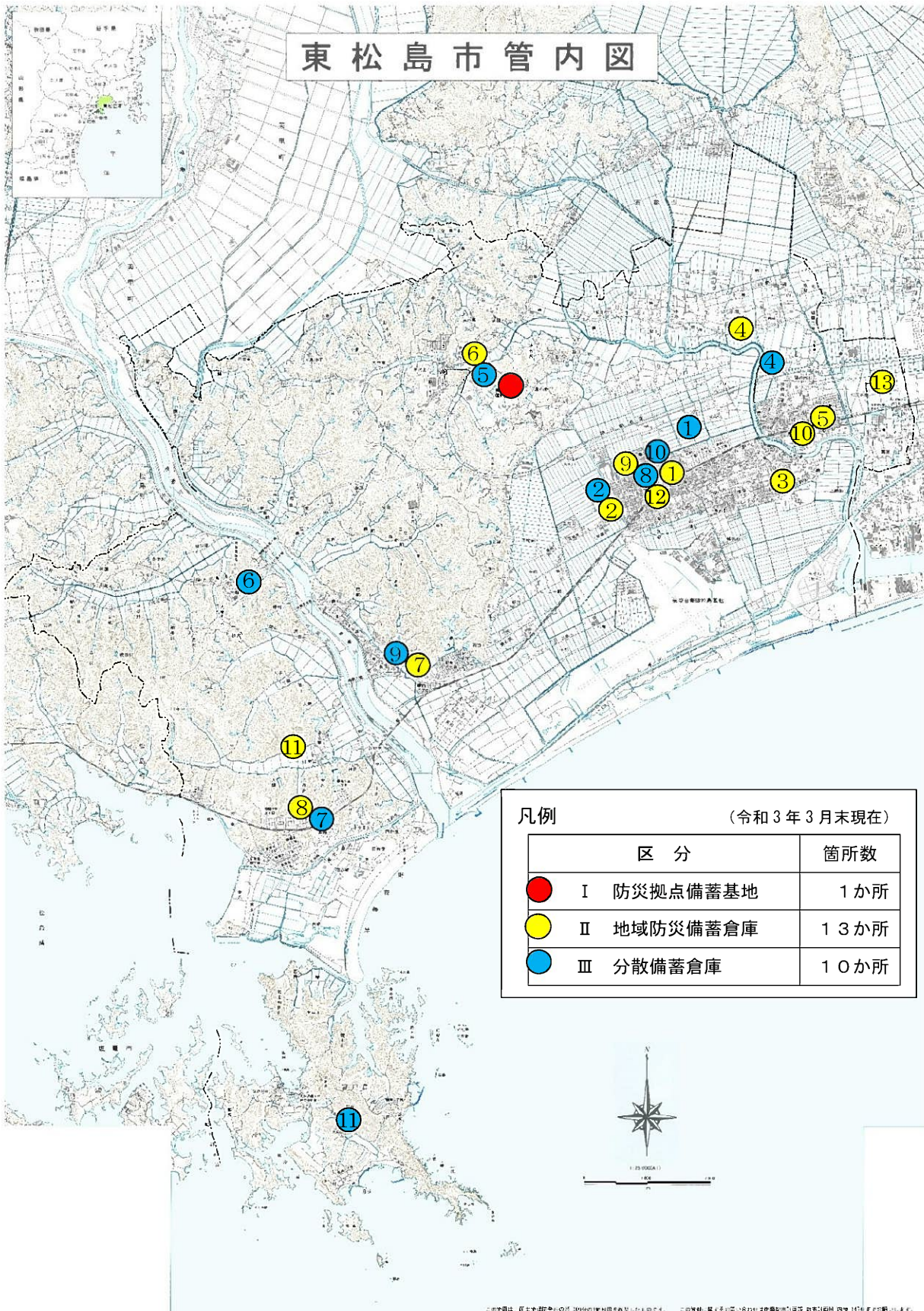
地域防災備蓄倉庫、分散備蓄倉庫



2 備蓄倉庫一覧

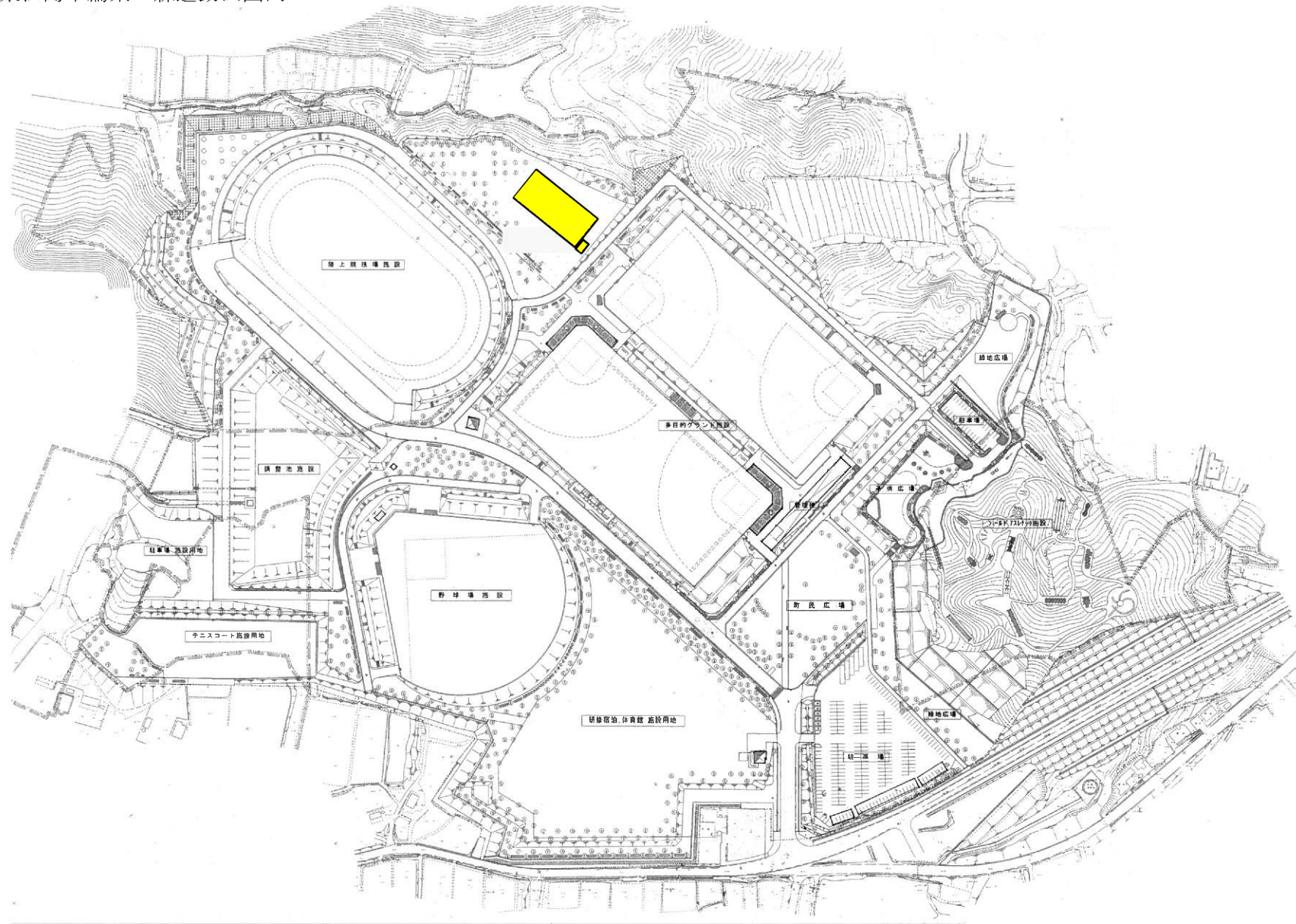
区 分	
I 防災拠点備蓄基地（1か所）	
1-1 東松島市鷹来の森運動公園内	
II 地域防災備蓄倉庫（13か所）	
小学校	2-1 矢本東小学校
	2-2 矢本西小学校
	2-3 大曲小学校（西校舎2階余裕教室）
	2-4 赤井小学校
	2-5 赤井南小学校（校舎3階備蓄スペース）
	2-6 大塩小学校
	2-7 鳴瀬桜華小学校（校舎1階備蓄スペース）
	2-8 宮野森小学校（体育館内備蓄スペース）
中学校	2-9 矢本第一中学校（校舎2階余裕教室）
	2-10 矢本第二中学校
	2-11 鳴瀬未来中学校（校舎1階備蓄スペース及び屋外備蓄スペース）
高等学校	2-12 東松島高等学校
	2-13 石巻西高等学校
III 分散備蓄倉庫（11か所）	
市民センター	3-1 矢本東市民センター（センター内備蓄スペース）
	3-2 矢本西市民センター（敷地内）
	3-3 大曲市民センター（防災拠点備蓄基地に保管）
	3-4 赤井市民センター（敷地内）
	3-5 大塩市民センター（敷地内）
	3-6 小野市民センター（東松島市学校給食センター敷地内に整備）
	3-7 野蒜市民センター（敷地内）
市役所等	3-8 東松島市役所本庁舎（南庁舎内備蓄スペース）
	3-9 東松島市役所鳴瀬庁舎（敷地内）
	3-10 東松島市コミュニティセンター（敷地内）
	3-11 宮城県松島自然の家（敷地内）

3 備蓄倉庫位置図

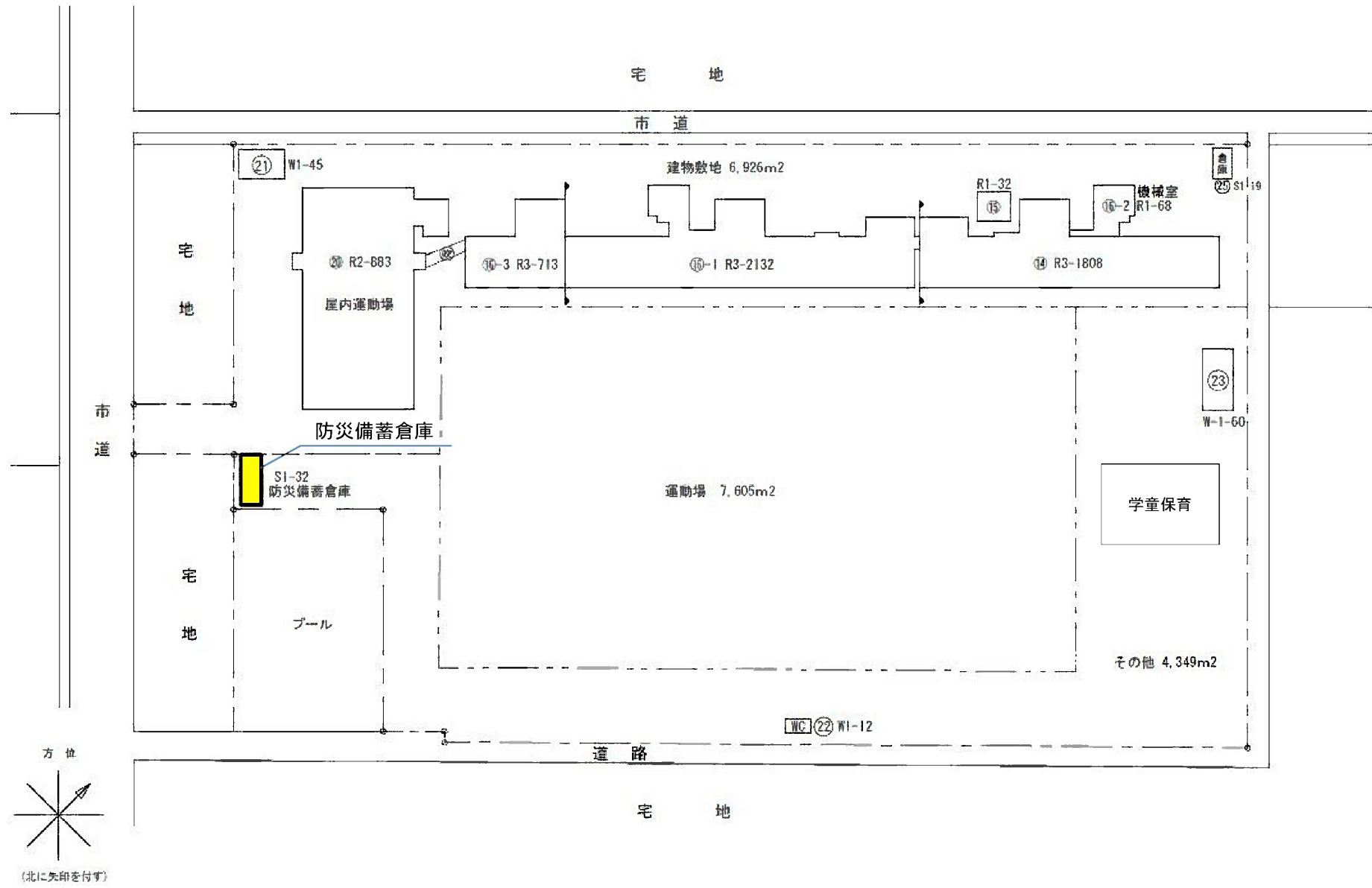


— 資料編 —

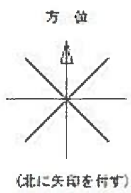
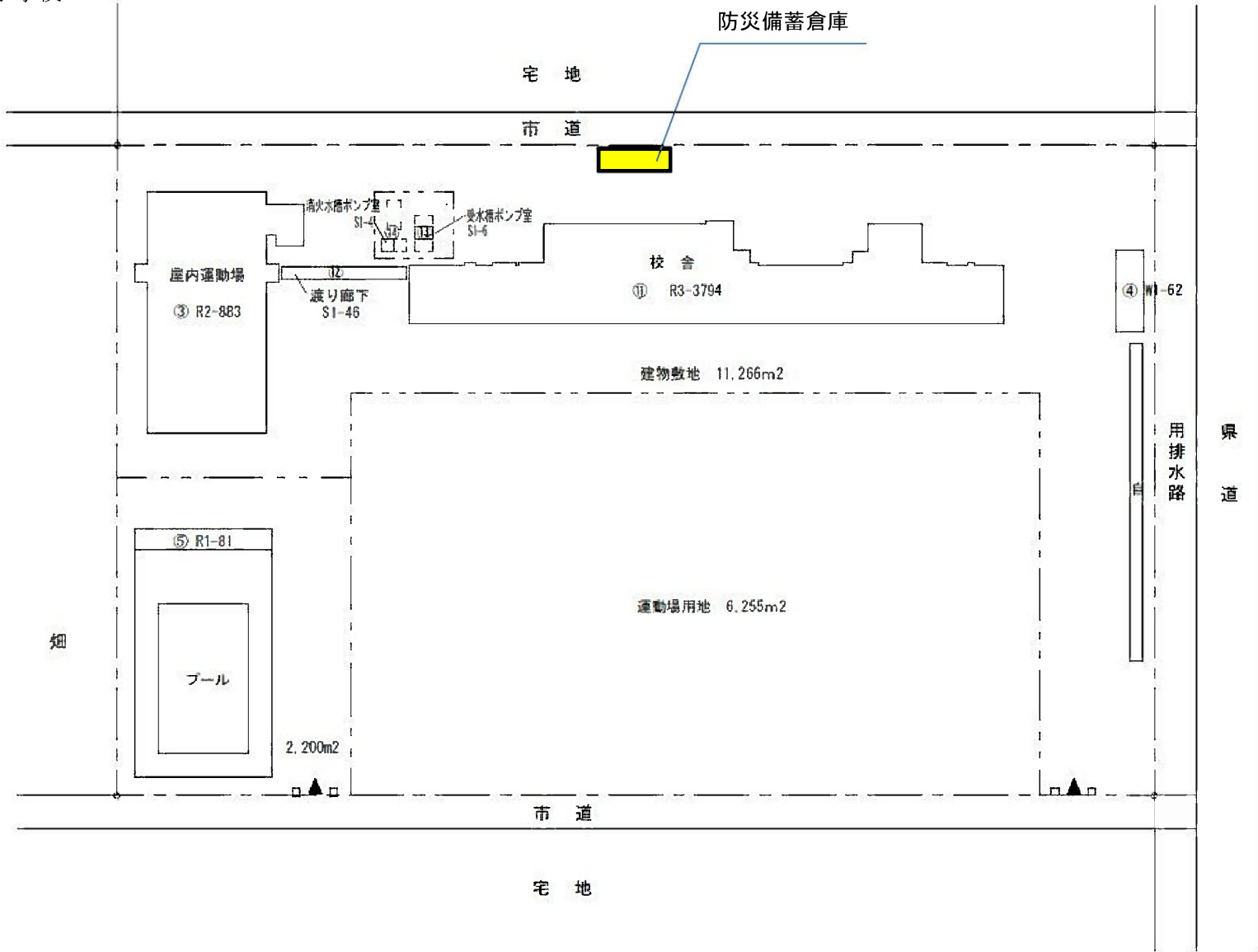
1 東松島市鷹来の森運動公園内



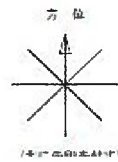
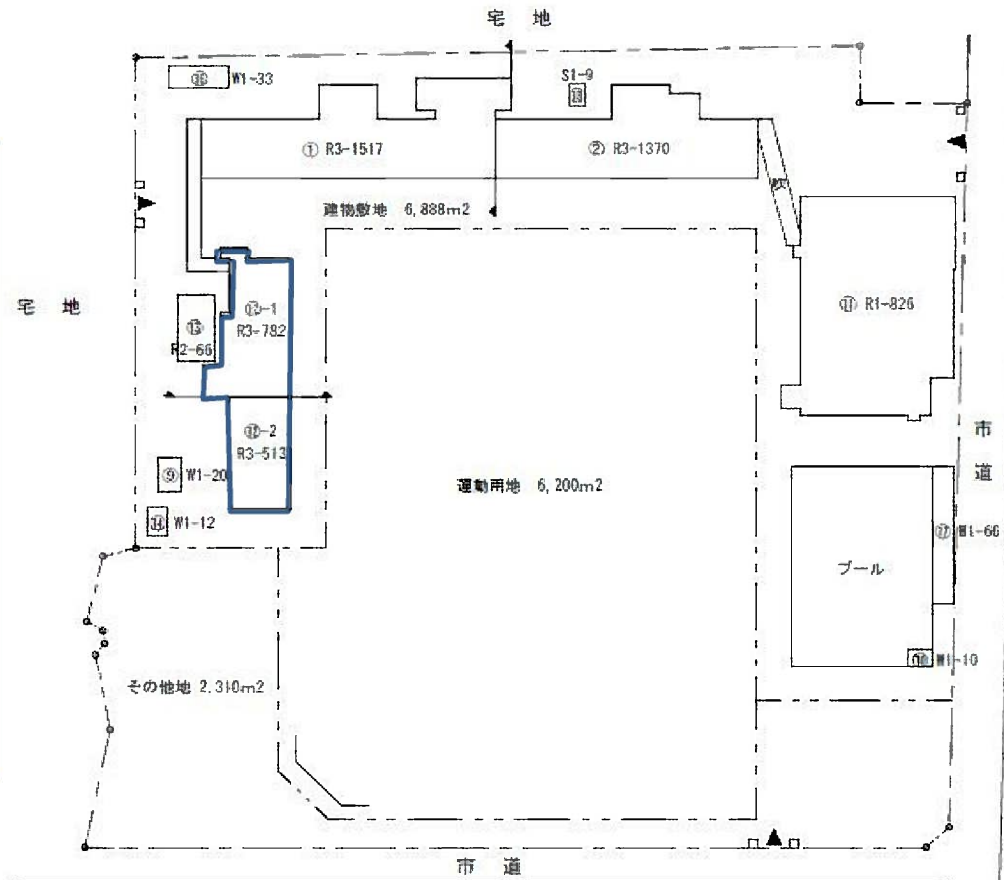
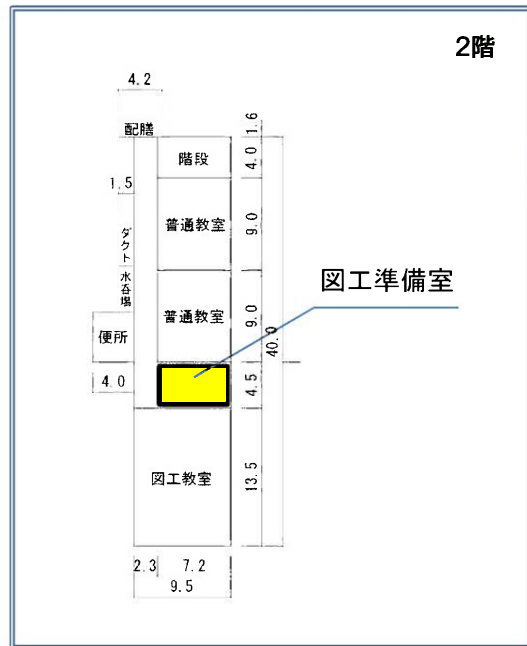
2-1 矢本東小学校



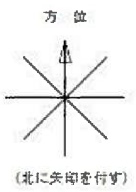
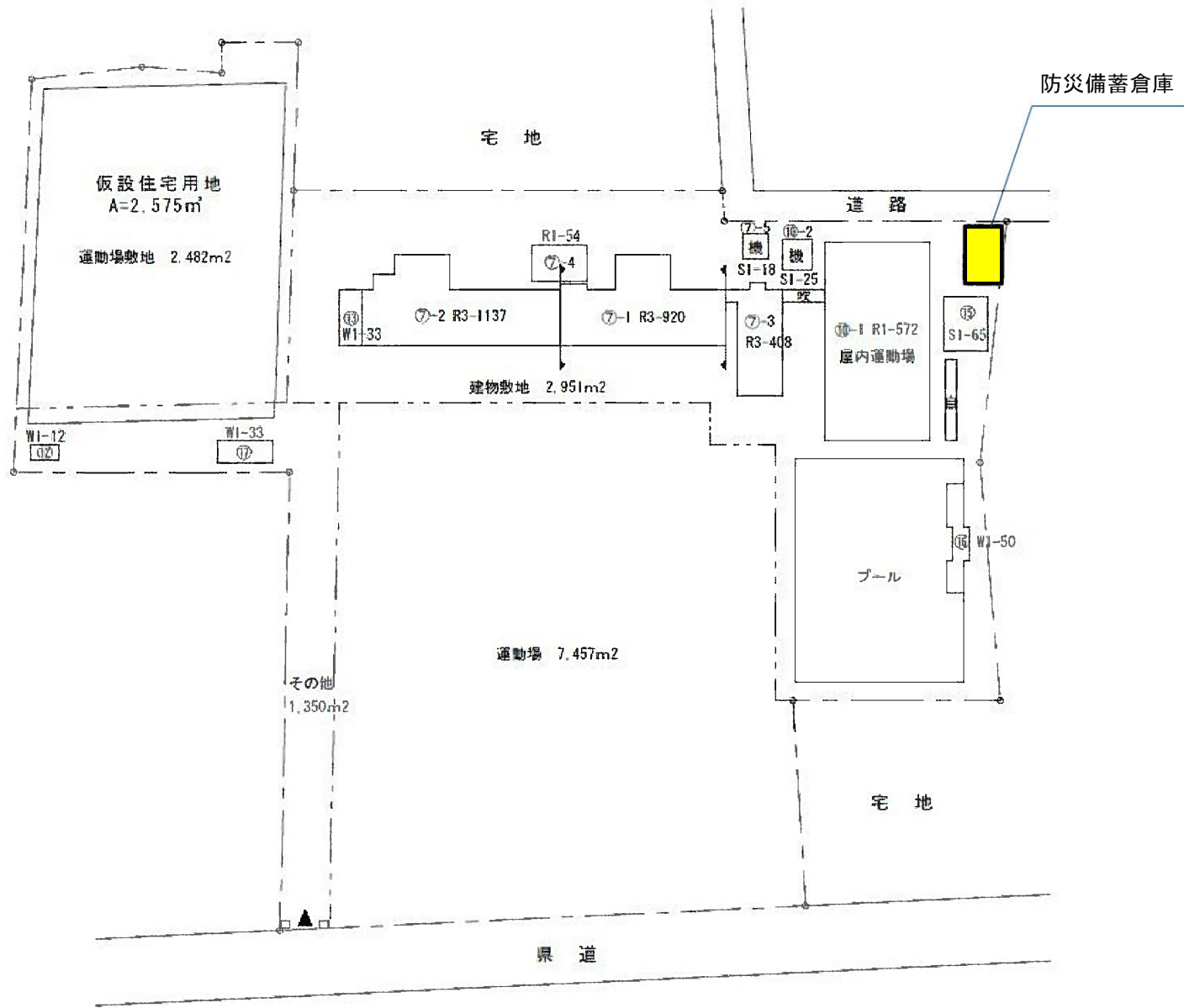
2-2 矢本西小学校



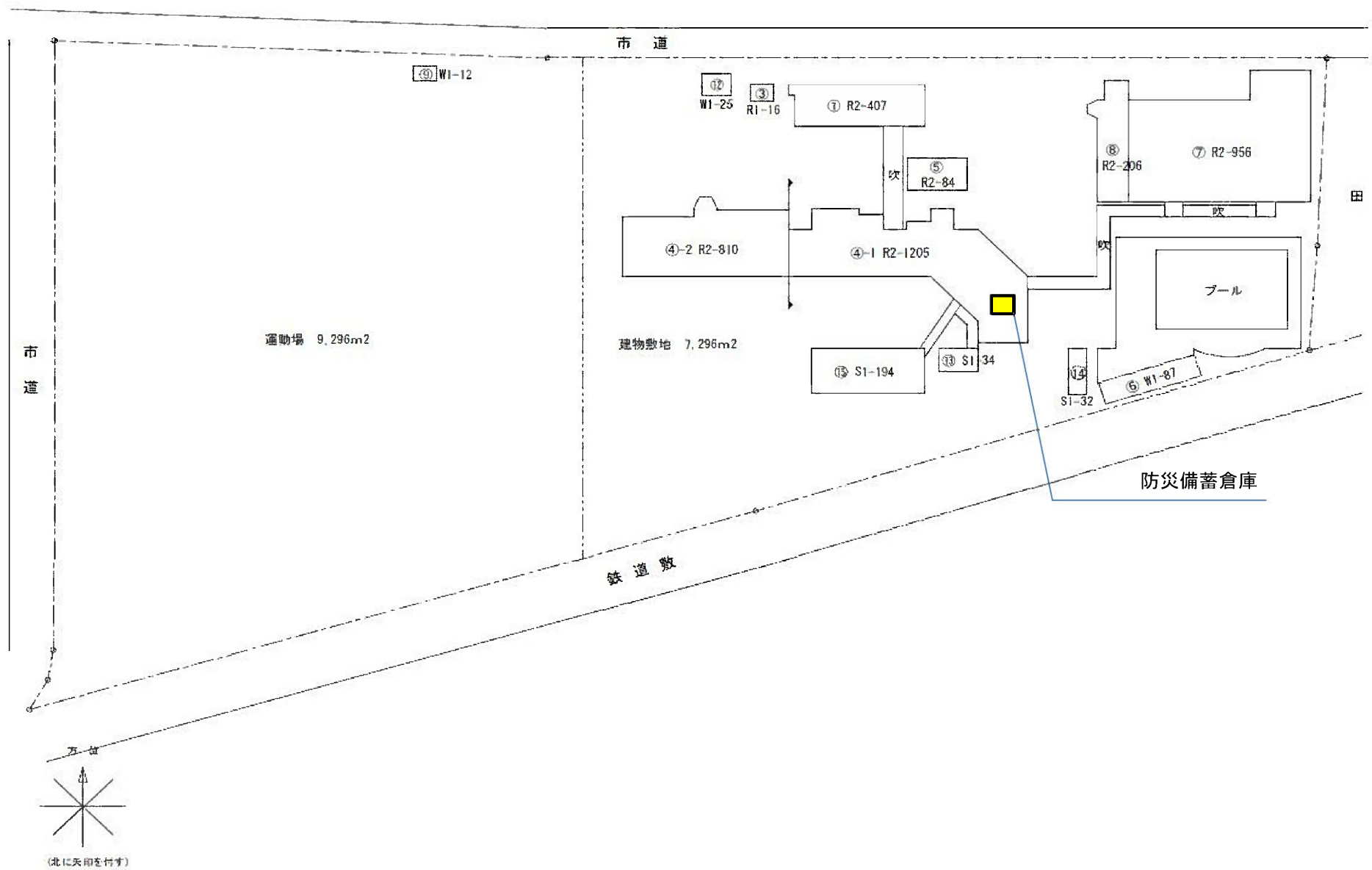
2-3 大曲小学校



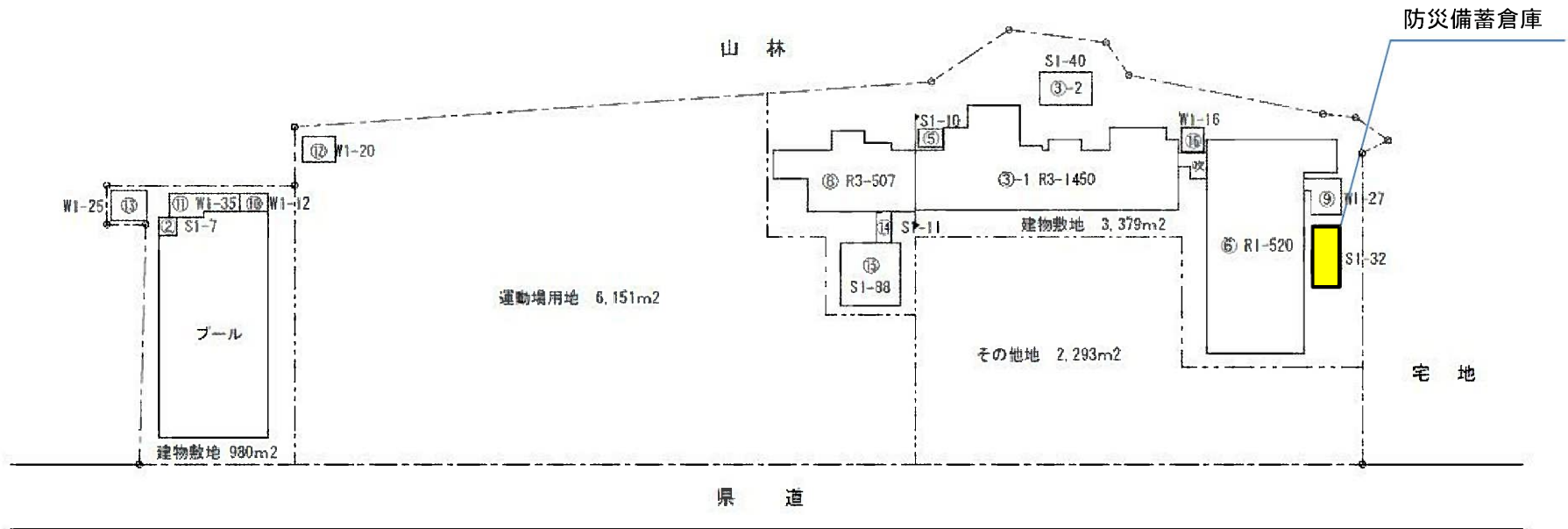
2-4 赤井小学校



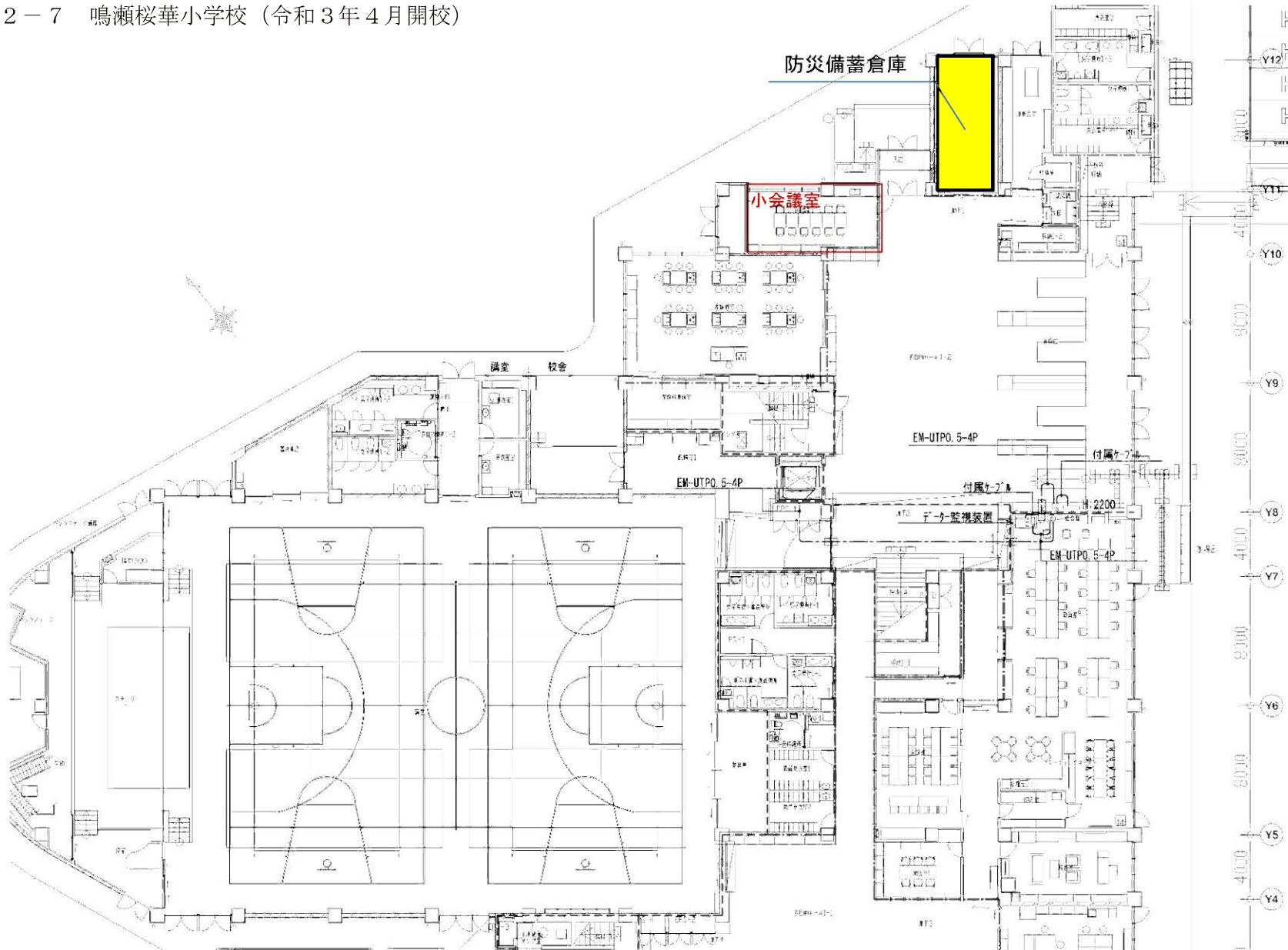
2-5 赤井南小学校



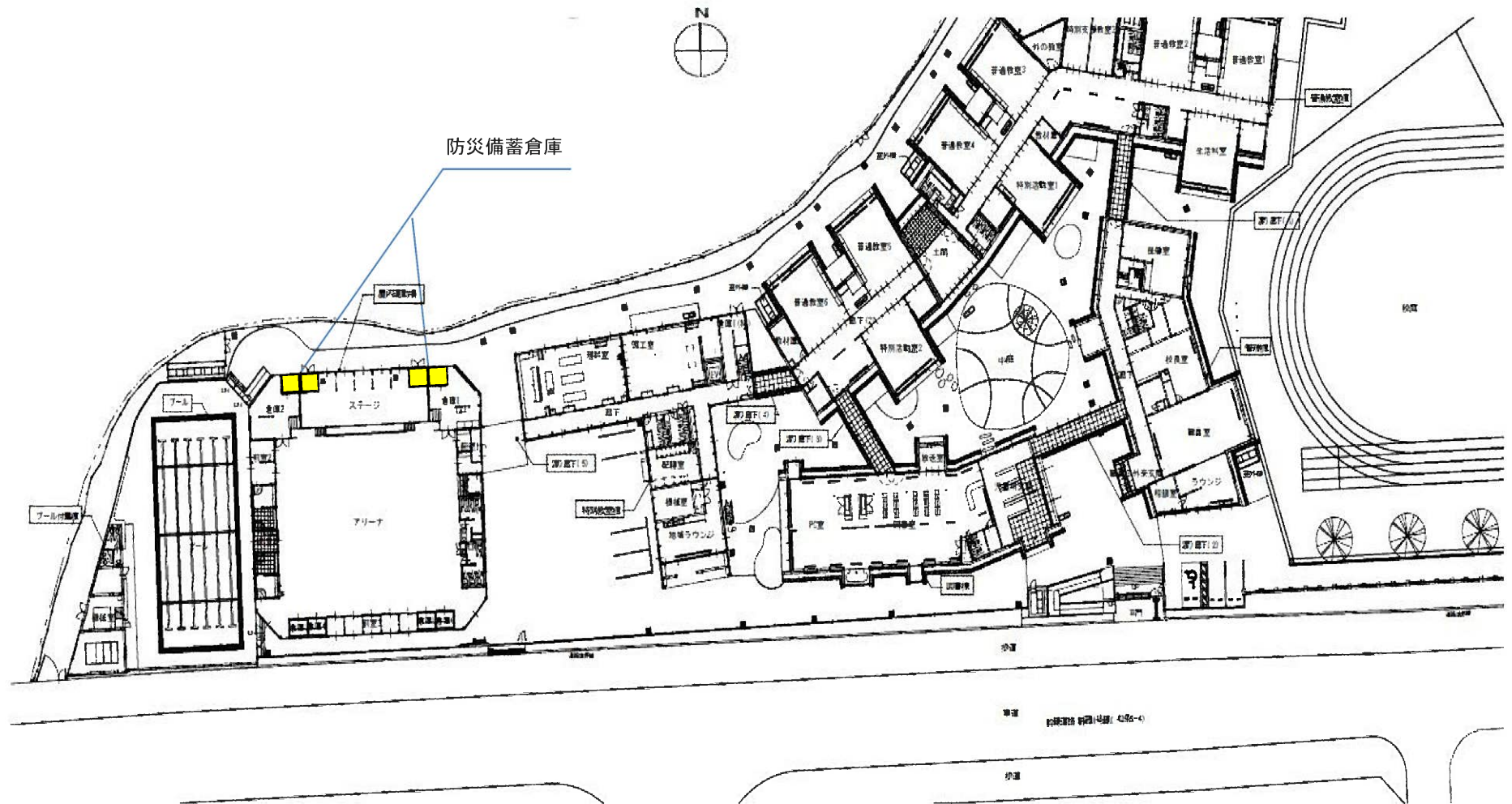
2-6 大塩小学校



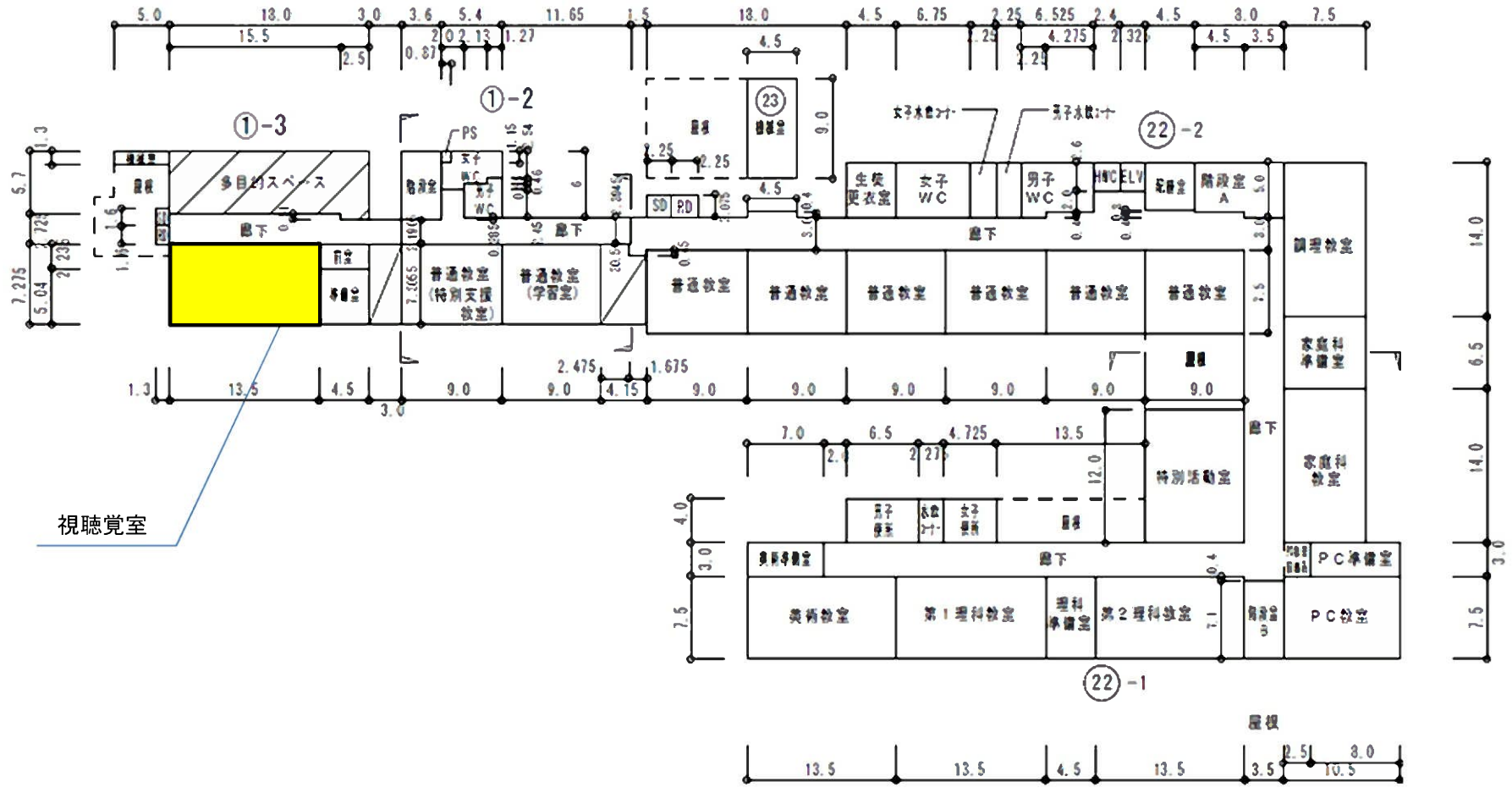
2-7 鳴瀬桜華小学校 (令和3年4月開校)



2-8 宮野森小学校

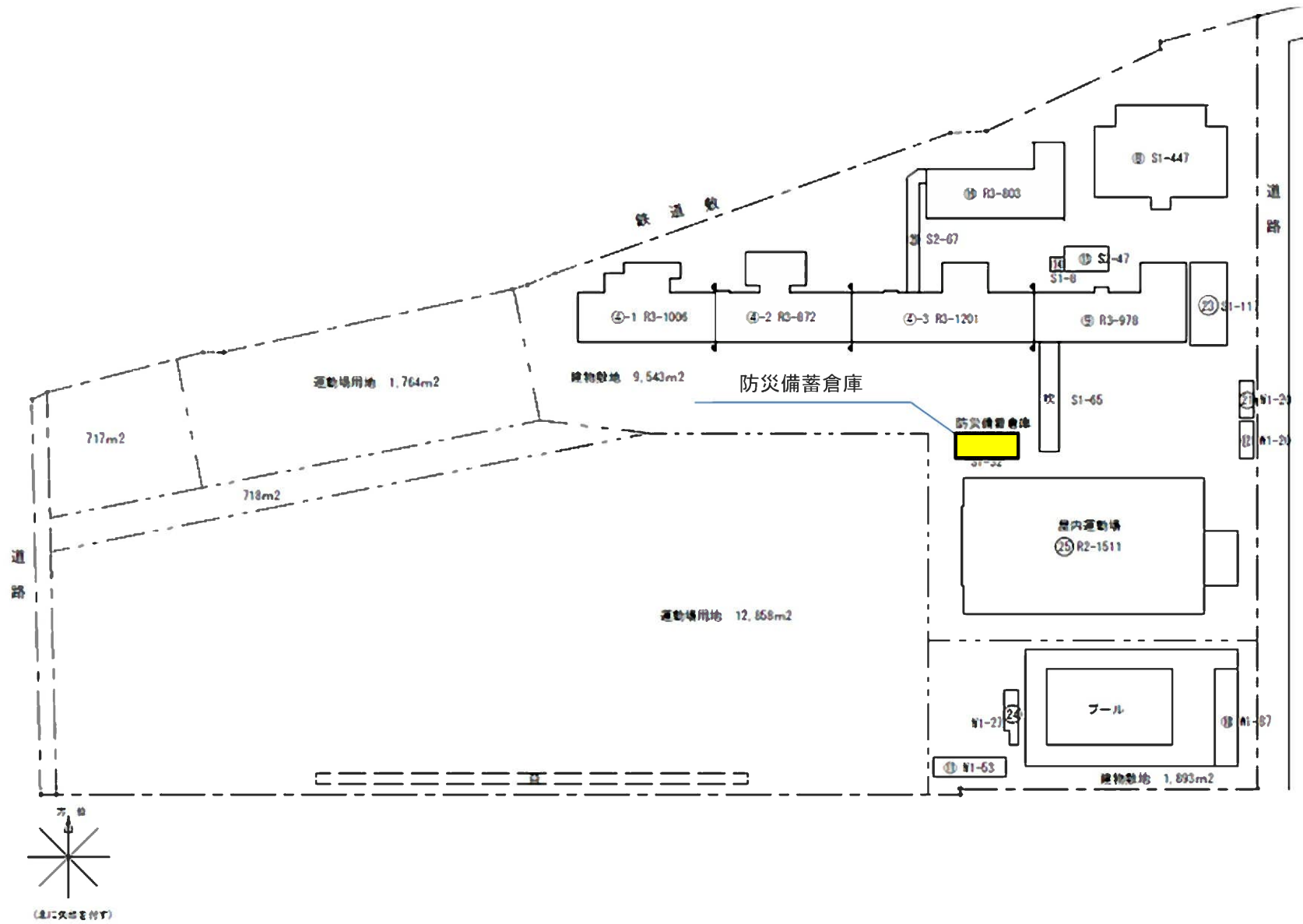


2-9 矢本第一中学校



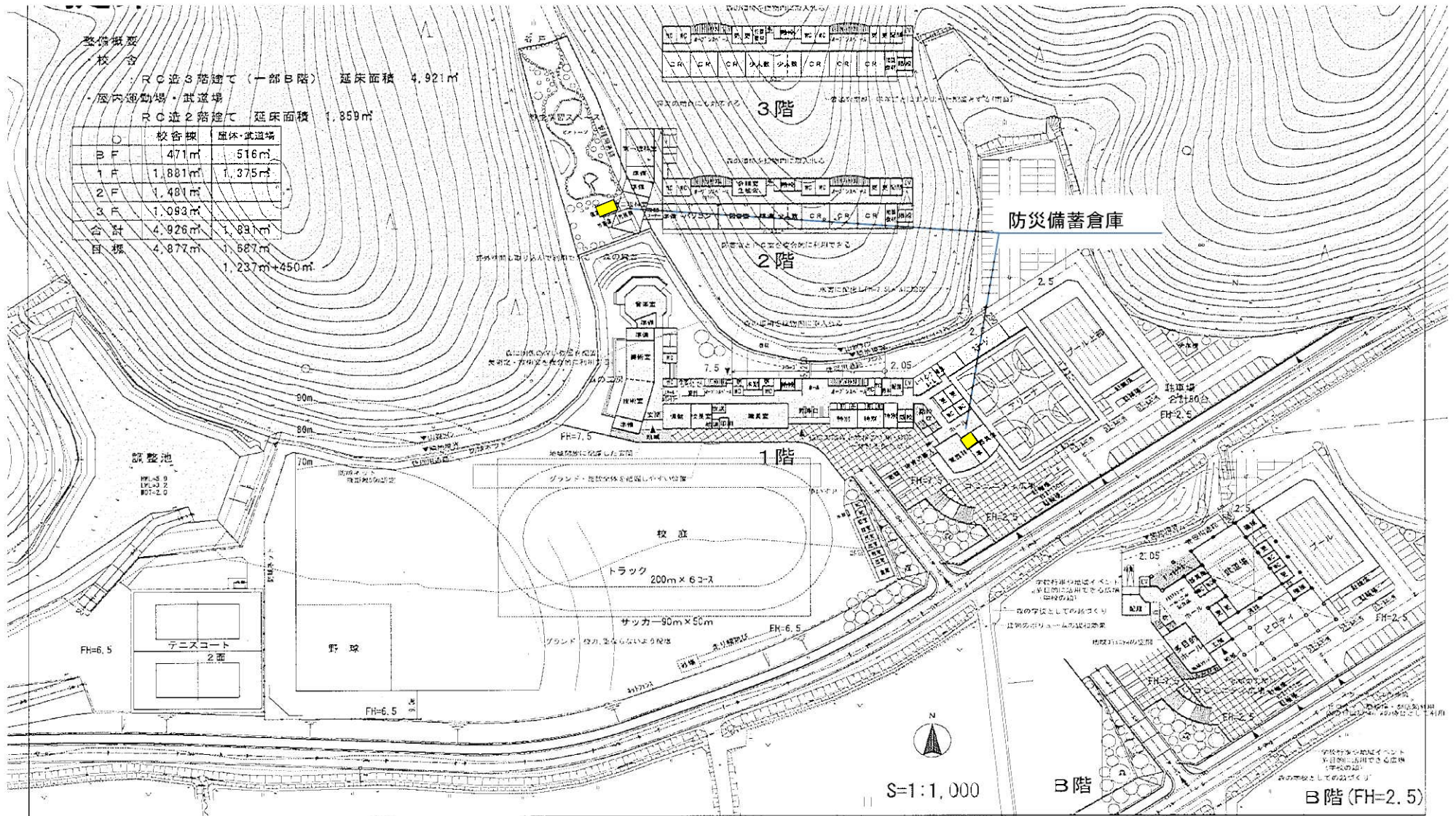
2 階

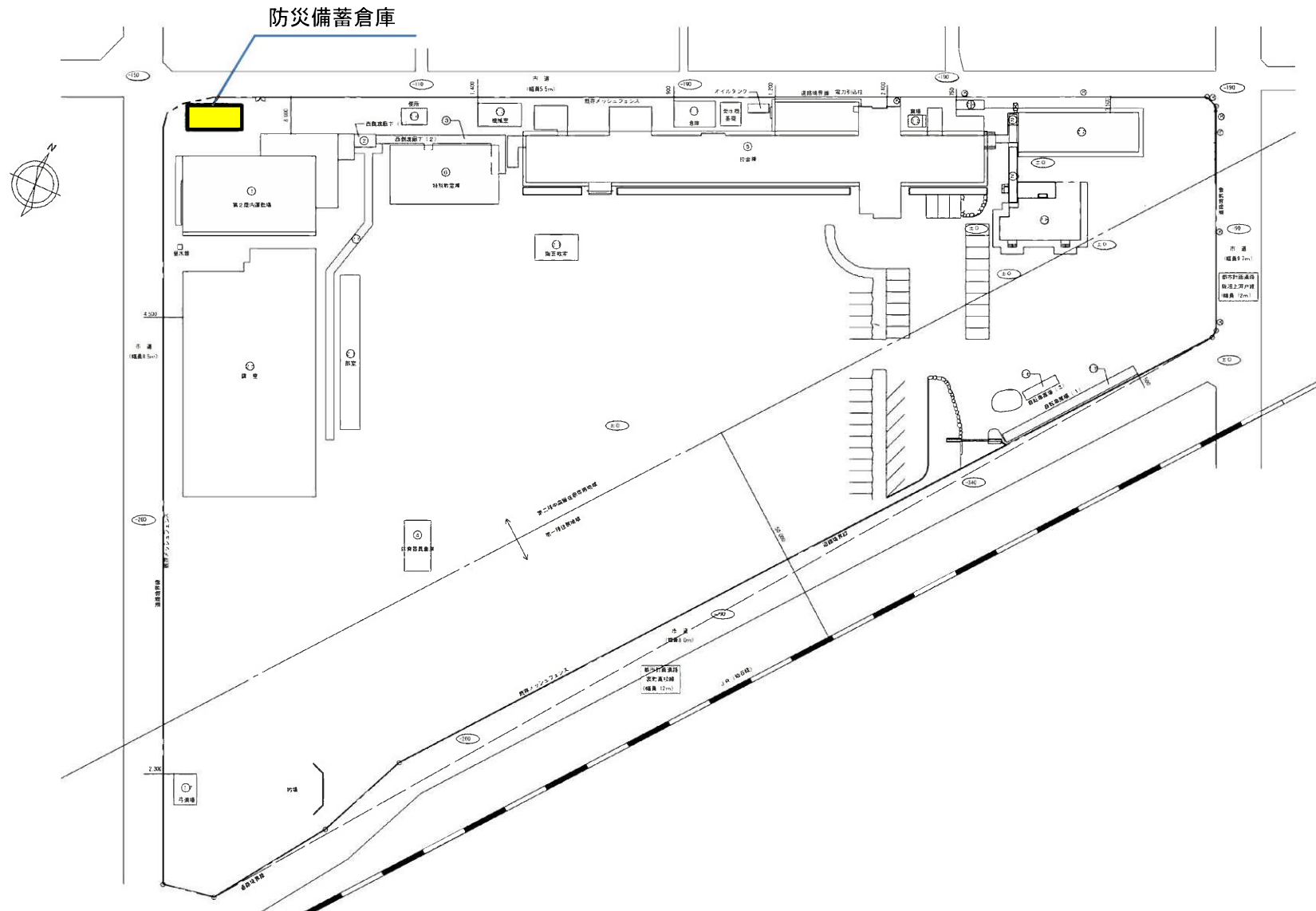
2-10 矢本第二中学校



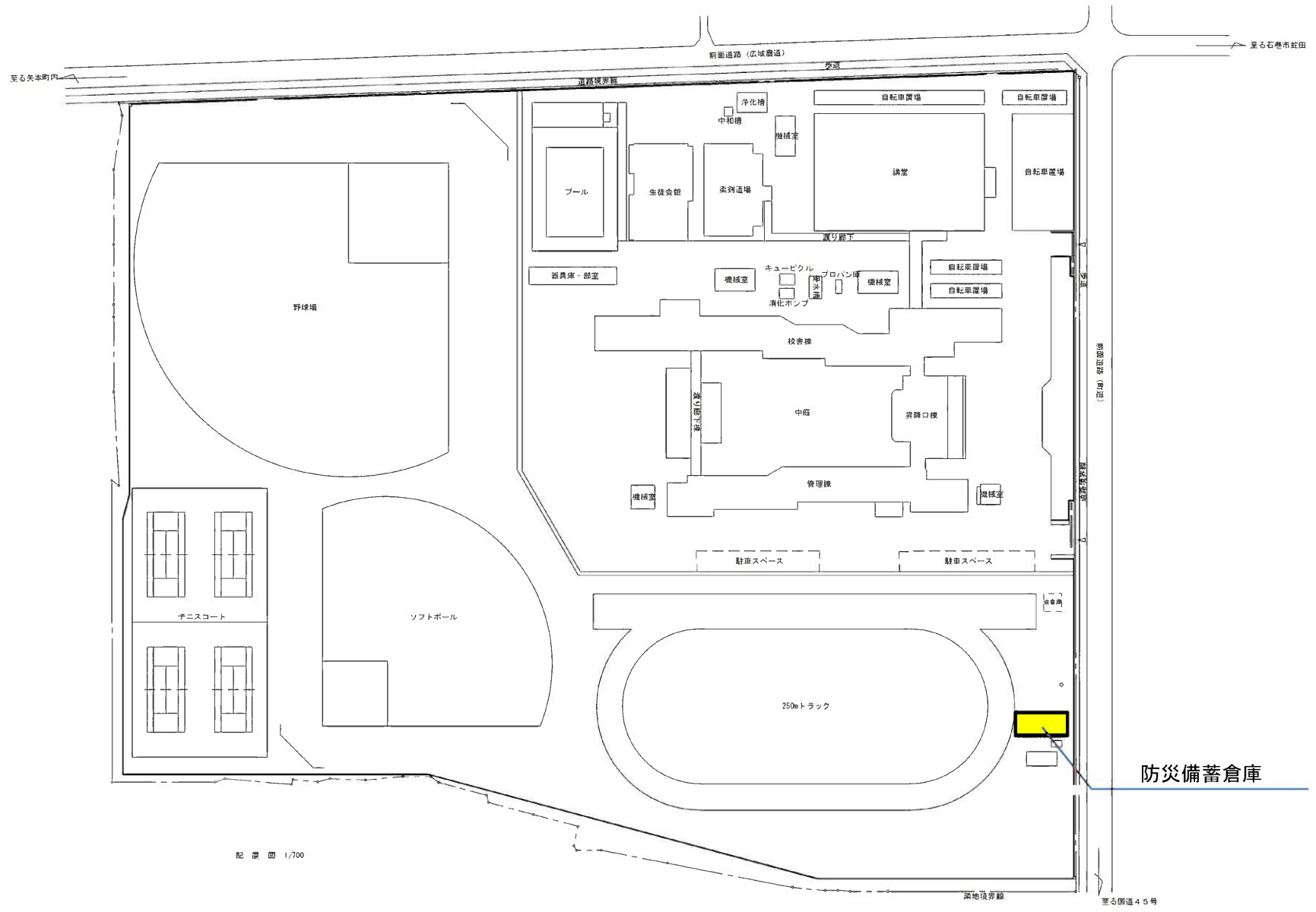
2-11 鳴瀬未来中学校

(防災倉庫1ヶ所：防災資機材関係、校内備蓄倉庫1ヶ所：食糧・飲料水関係)



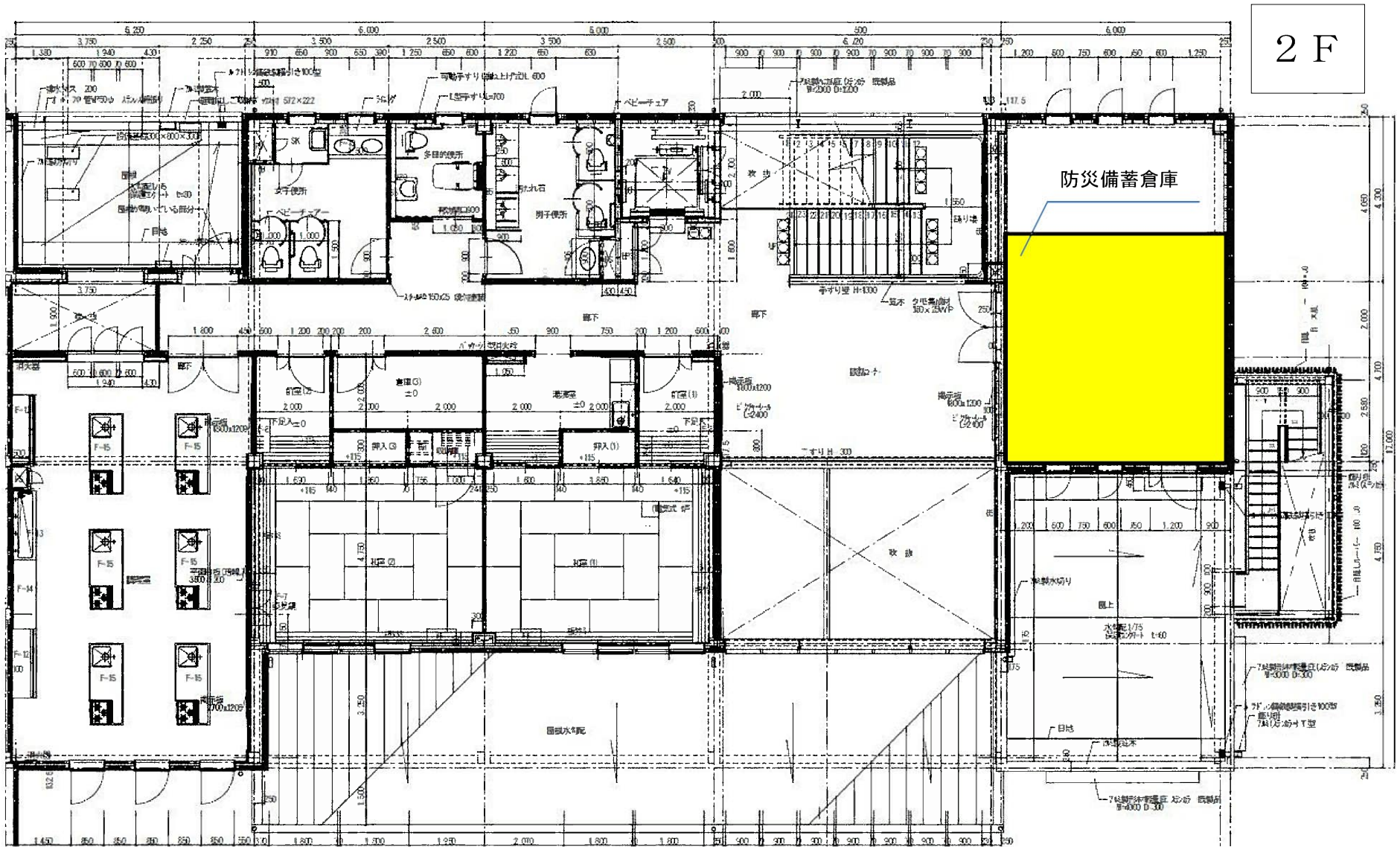


2-13 石巻西高等学校

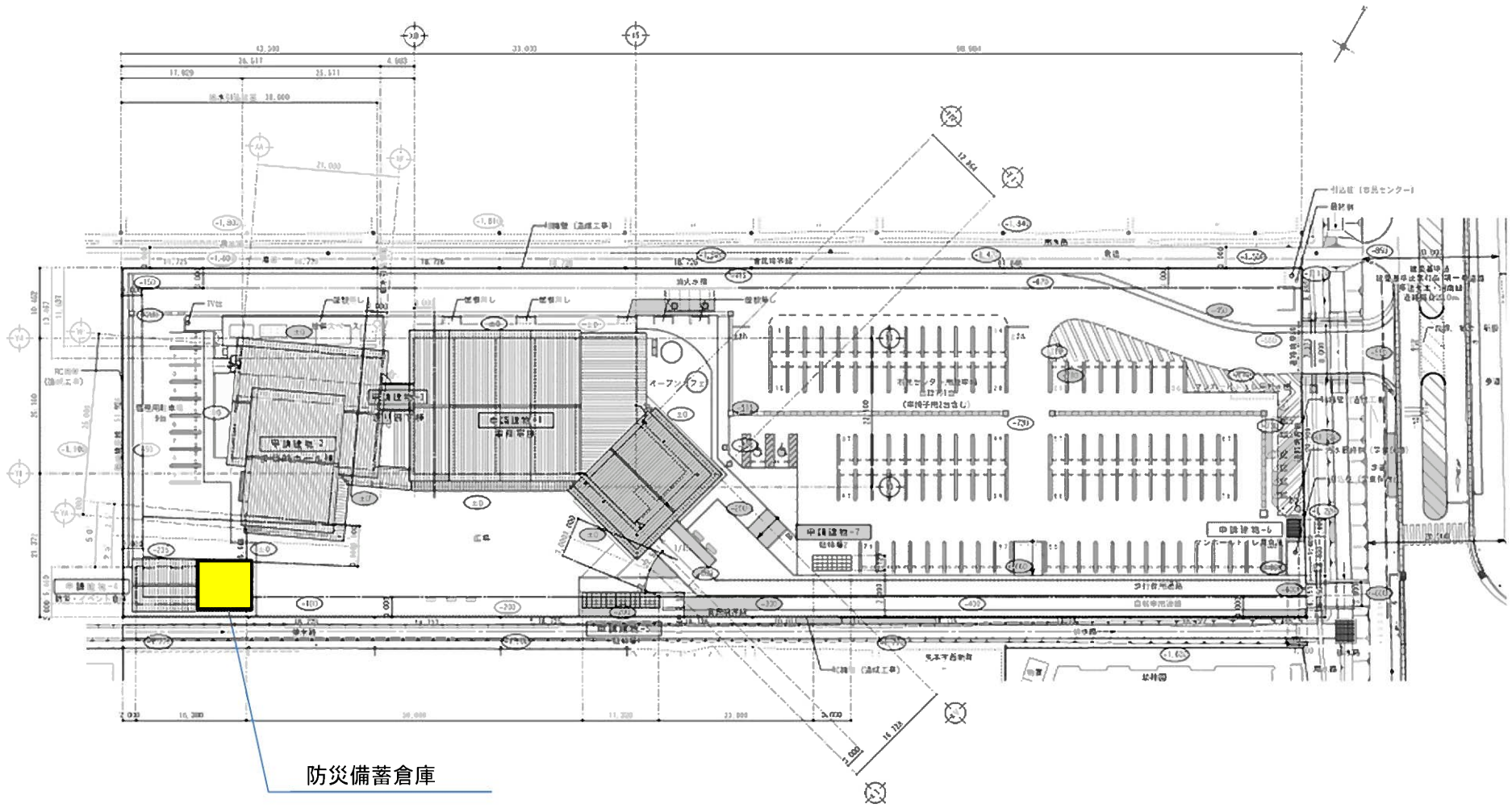


配 図 1/700

3-1 矢本東市民センター

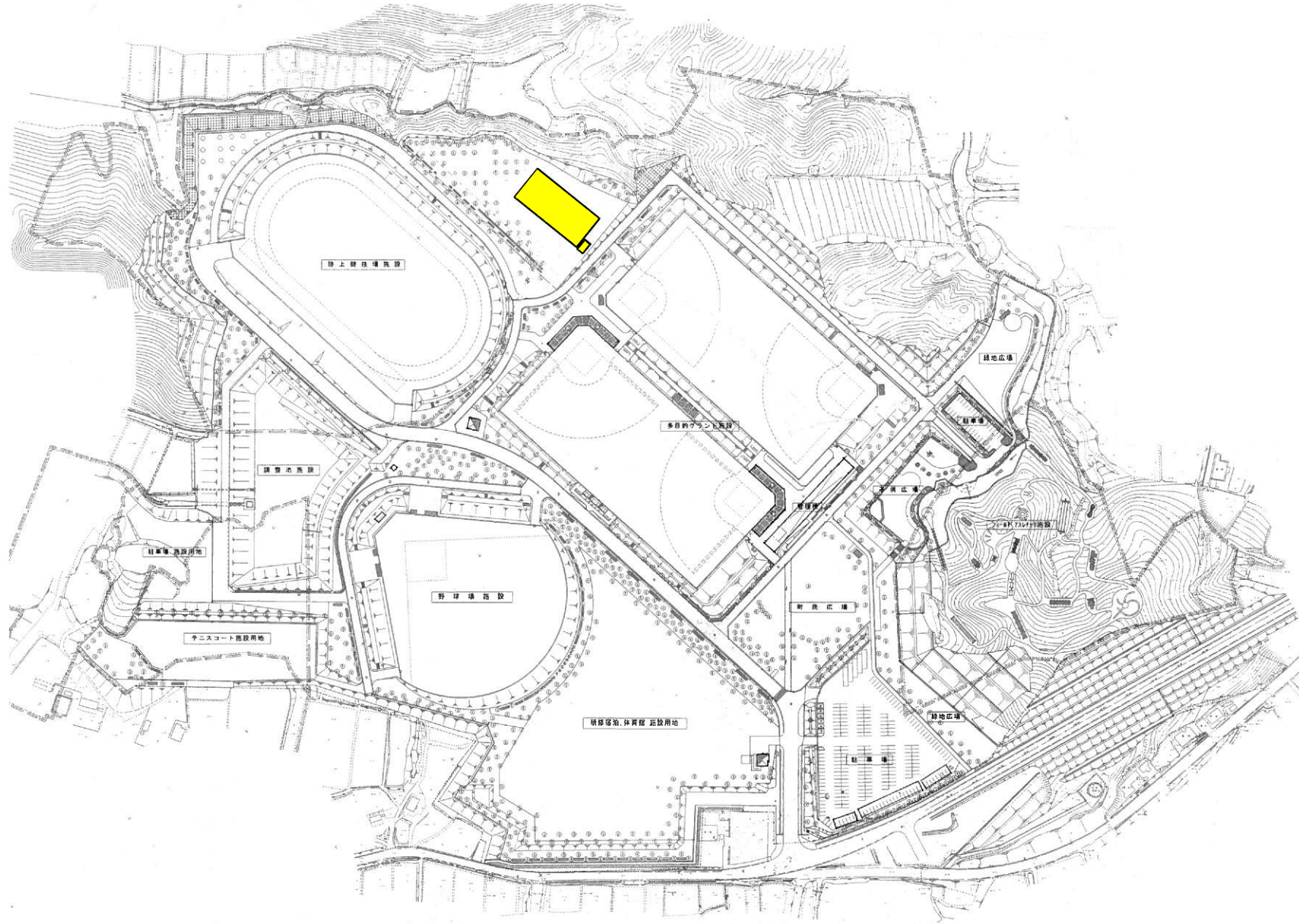


3-2 矢本西市民センター

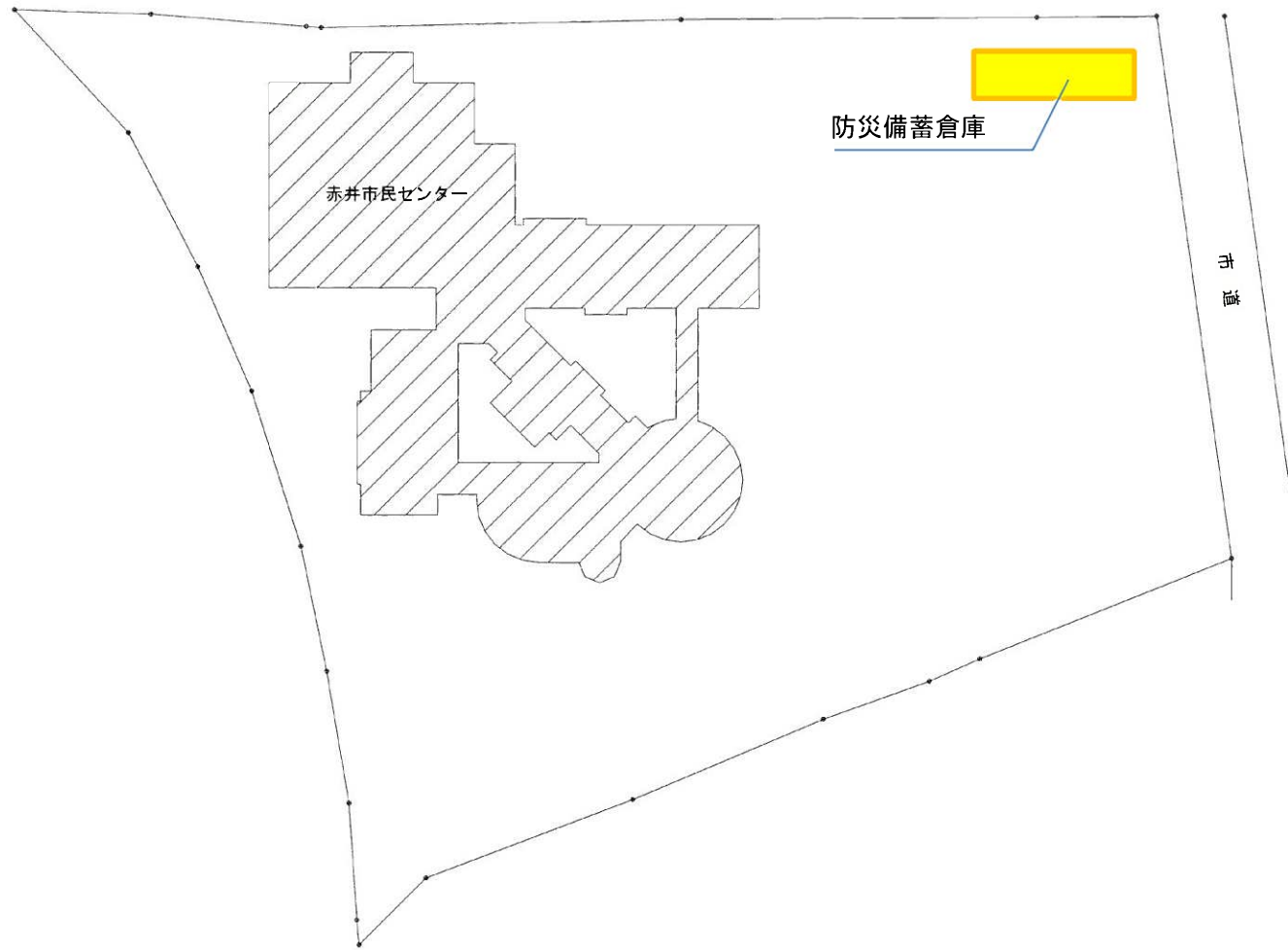


3-3 大曲市民センター

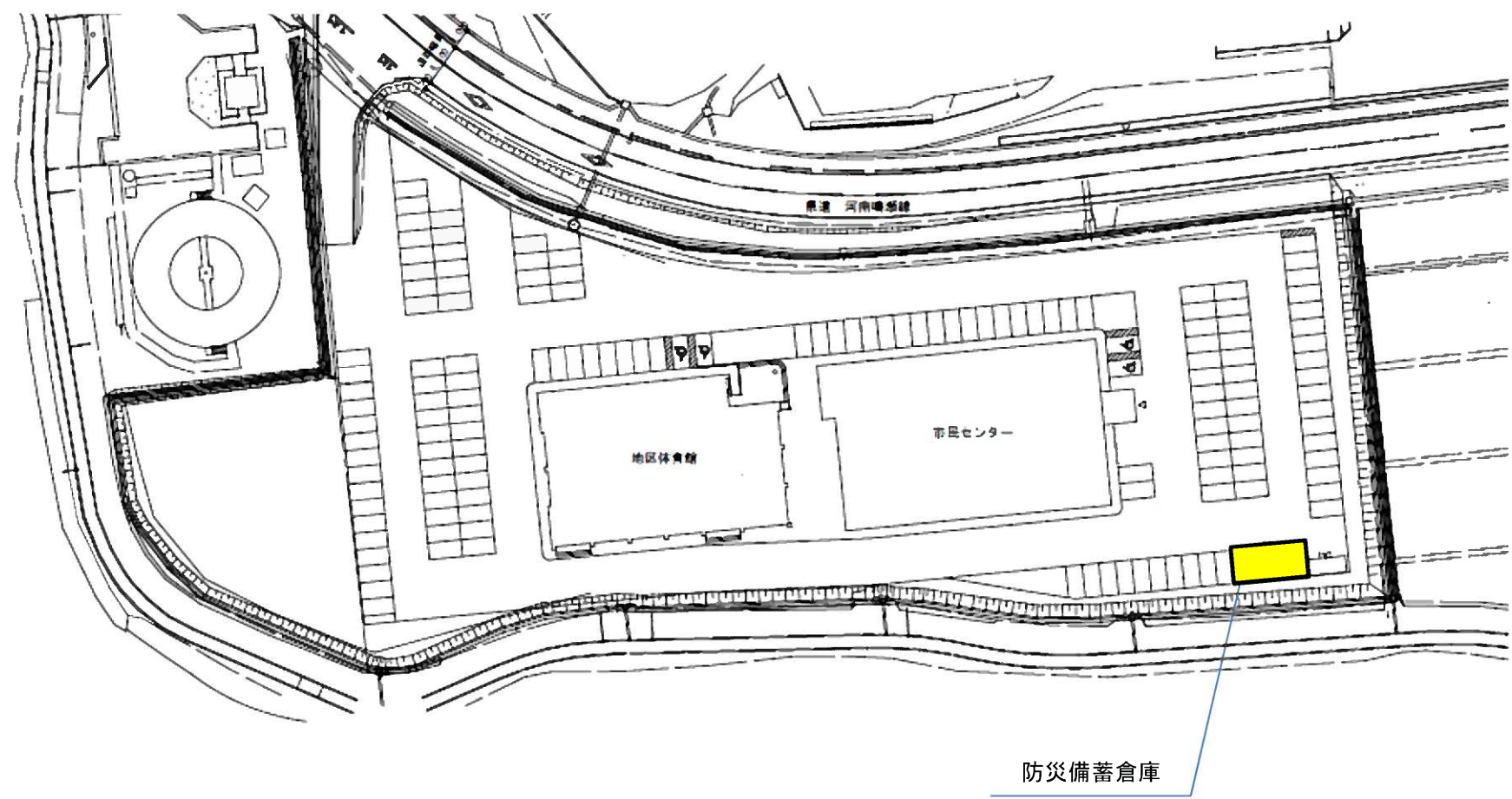
防災拠点備蓄基地預かり（東松島市鷹来の森運動公園内）



3-4 赤井市民センター

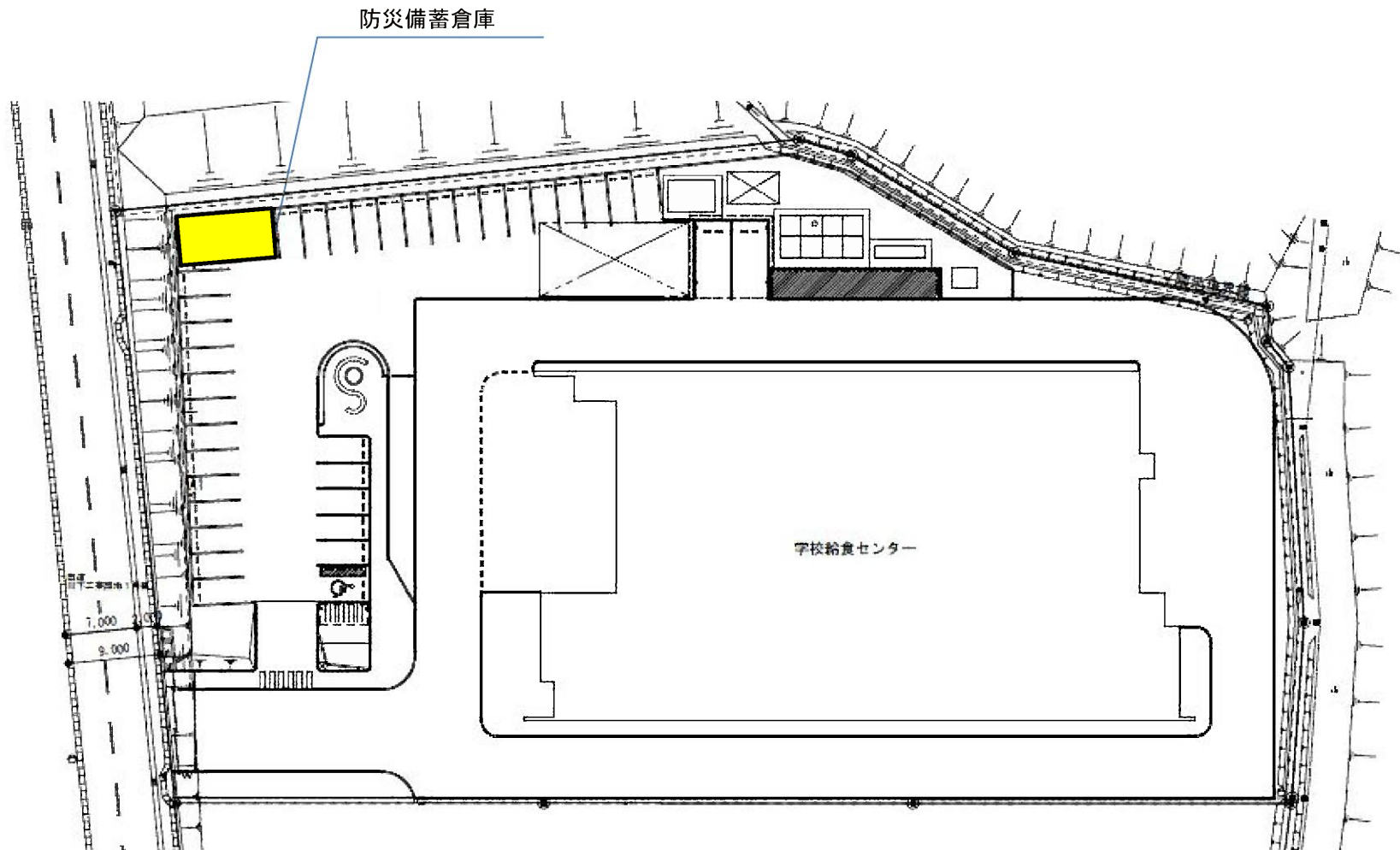


3-5 大塩市民センター

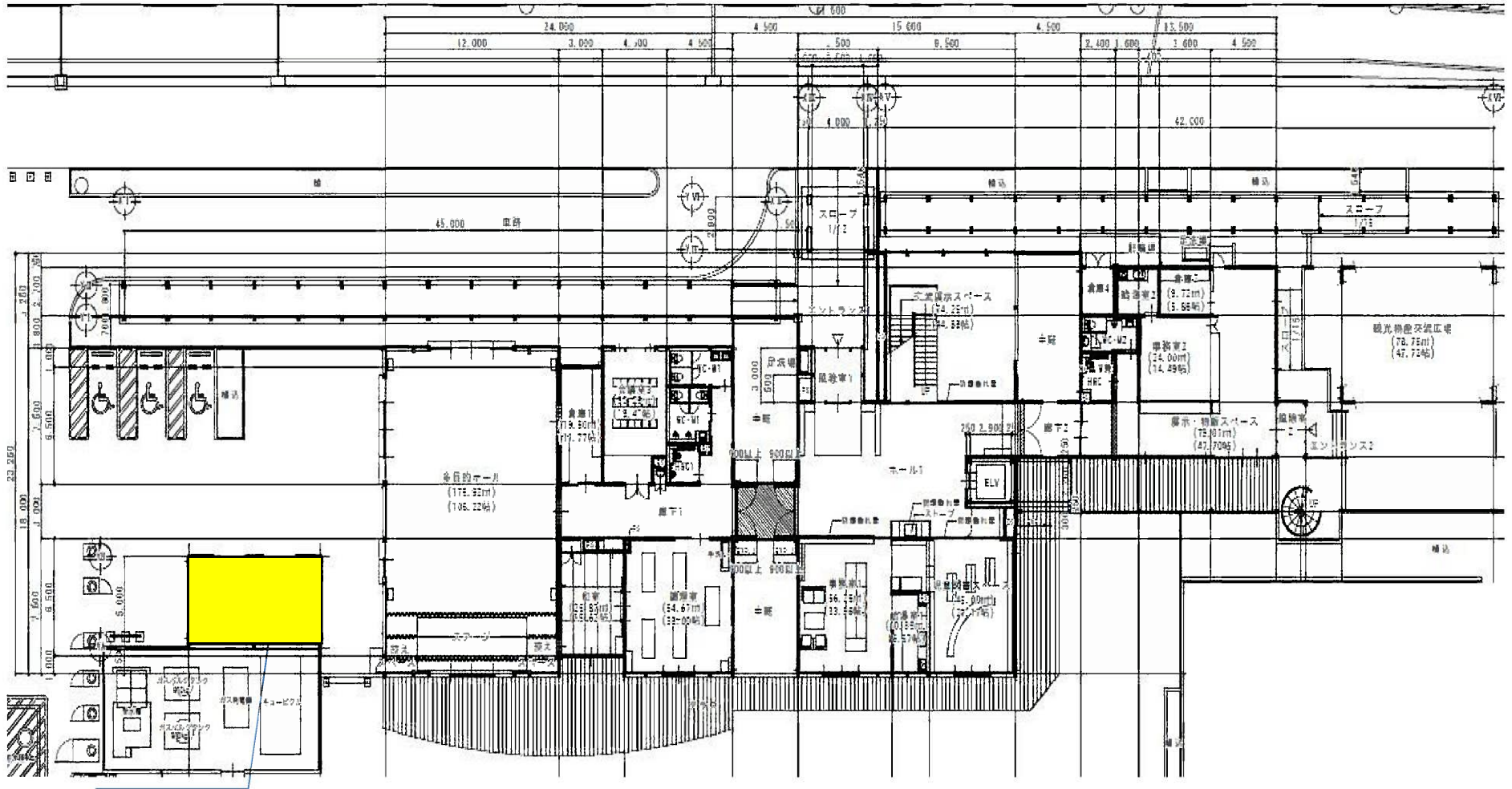


3-6 小野市民センター

(東松島市学校給食センター内(ひびき工業団地内))

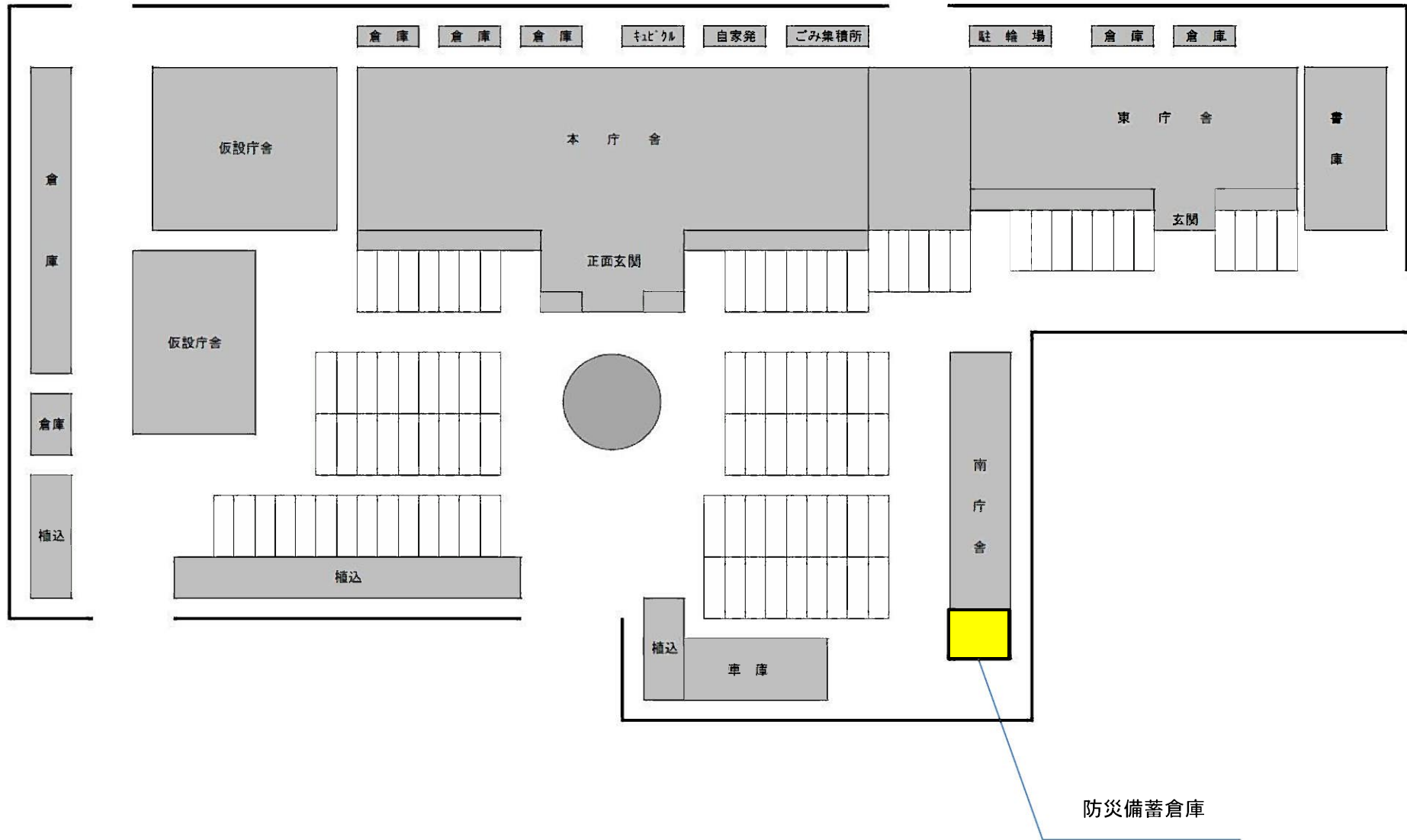


3-7 野蒜市民センター

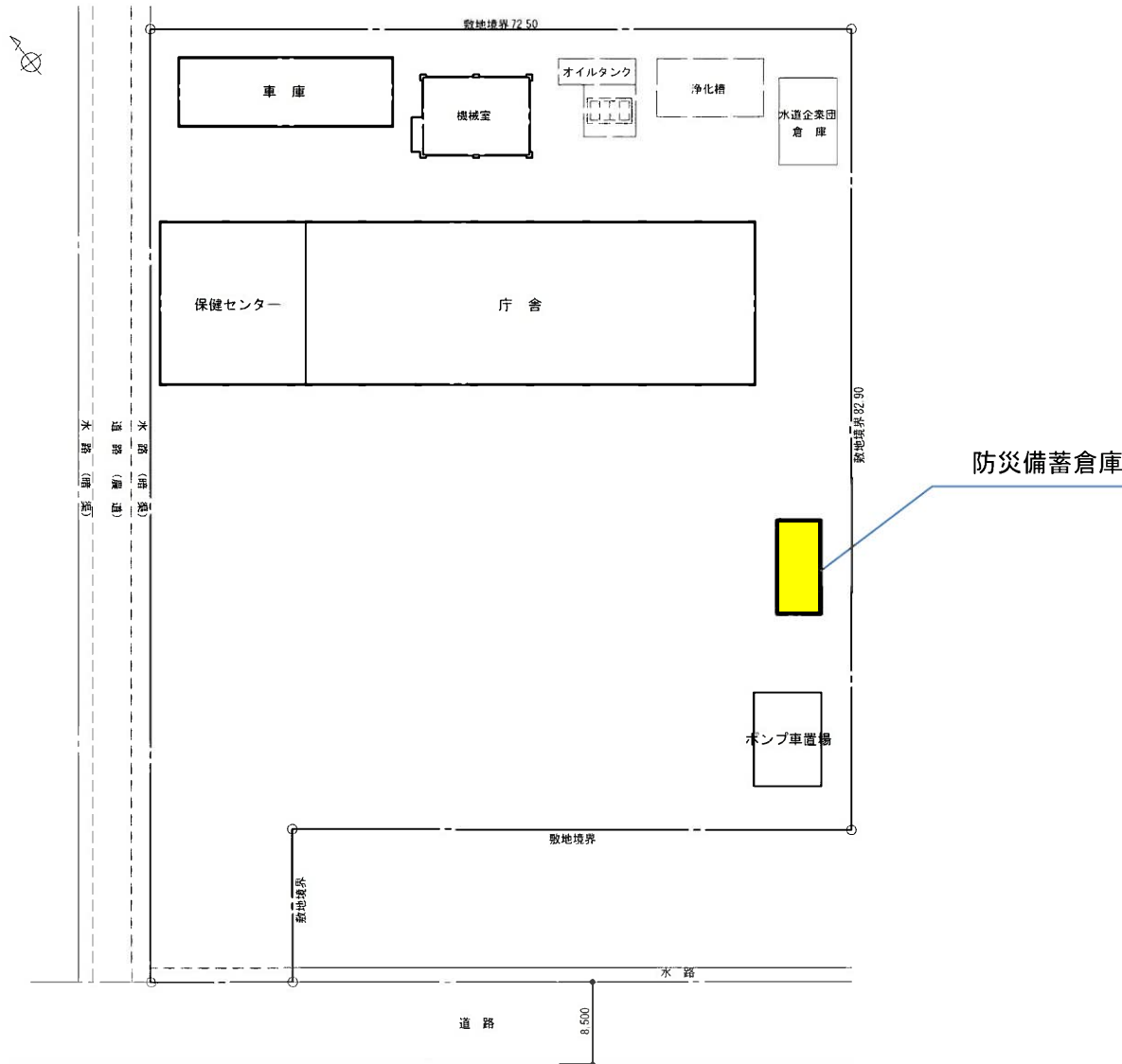


防災備蓄倉庫

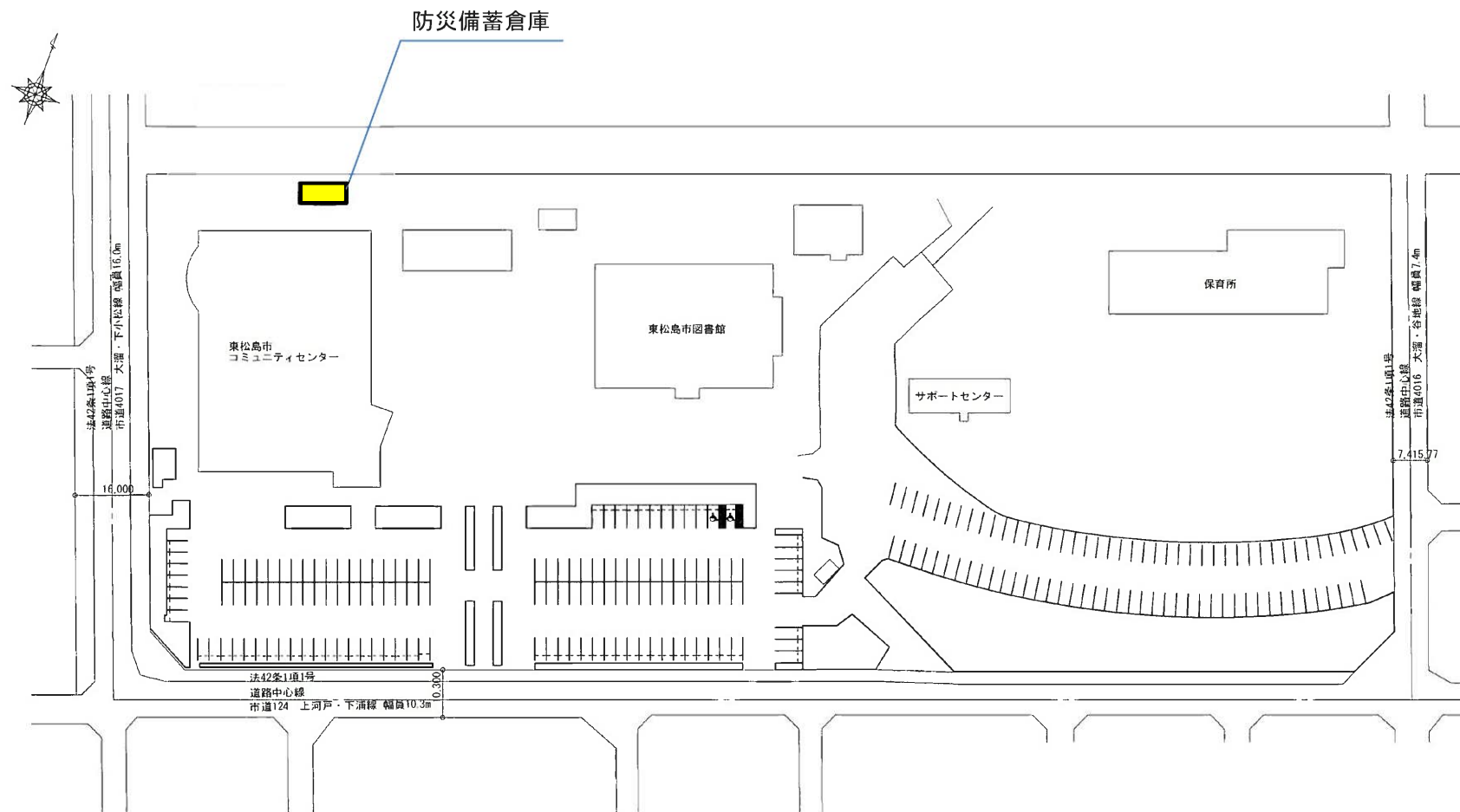
3-8 東松島市役所本庁舎



3 - 9 東松島市役所鳴瀬庁舎



3-10 東松島市コミュニティセンター



3-11 宮城県松島自然の家

